台北

TAIPEI

春季号
2018

Vol. 11

平凡なものを素敵に変える
デザイナーの手が創る
生活のぬくもり



伝統と革新が生んだ
心打つ老舗の味わい

すいすいお得な台湾北部
北北基おもしろカード





TAIPEI

本誌は以下の場所で無料で入手できます。

台北市政府觀光傳播局／
台北市観光伝播局
Department of Information and Tourism,Taipei City Government
(02)2720-8889／1999 内線 7564
台北市市府路 1 号 4 階

台湾桃園国際空港第一ターミナル
到着ロビー
サービスカウンター
Tourist Service Center at Arrival Hall, Taiwan Taoyuan International Airport - Terminal I
(03)398-2194 桃園市航站南路 9 号

台湾桃園国際空港第二ターミナル
出国ロビー
サービスカウンター
Tourist Service Center at Departure Hall, Taiwan Taoyuan International Airport - Terminal II
(03)398-3341 桃園市航站南路 9 号

美國在台協會／アメリカ在台湾協会
American Institute in Taiwan
(02)2162-2000
台北市信義路三段 134 巷 7 号

遠企購物中心／遠企ショッピングセンター
Taipei Metro the Mall
(02)2378-6666 内線 6580
台北市敦化南路二段 203 号

國語日報語文中心／国語日報語学センター
Mandarin Daily News (Language Center)
(02)2341-8821 台北市福州街 2 号

臺北市立美術館／台北市立美術館
Taipei Fine Arts Museum
(02)2595-7656
台北市中山北路三段 181 号

聖多福天主教堂／
セントクリストファーカトリック教会
St. Christopher Catholic Church
(02)2594-7914
台北市中山北路三段 51 号

士林區公所／士林区役所
Shilin District Office
(02)2882-6200 内線 8725
台北市中正路 439 号 8 階

台北士林劍潭活動中心／
台北士林剣潭市民センター
Shilin Chientan Overseas Youth Activity Center
(02)2885-2151 台北市中山北路四段 16 号

南港軟體工業園區／南港ソフトウェアパーク
Nangang Software Park
(02)2655-3093 内線 124
台北市三重路 19-10 号 2 階

台北美國學校／台北アメリカンスクール
Taipei American School
(02)2873-9900 台北市中山北路六段 800 号

國立中正紀念堂／国立中正記念堂
National Chiang Kai-shek Memorial Hall
(02)2343-1100 台北市中山南路 21 号

台北當代藝術館／ MOCA Taipei
Museum of Contemporary Art Taipei
(02)2552-3720 台北市長安西路 39 号

市長官邸藝文沙龍／市長官邸アートサロン
Mayor's Residence Arts Salon
(02)2396-9398 台北市徐州路 46 号

台北國際藝術村／台北国際芸術村
Taipei Artist Village
(02)3393-7377 台北市北平東路 7 号

台北二二八紀念館／台北二二八記念館
Taipei 228 Memorial Museum
(02)2389-7228 台北市凱達格蘭大道 3 号

交通部觀光局旅遊服務中心／
交通部観光局トラベルサービスセンター
Travel Service Center, Tourism Bureau, M.O.T.C
(02)2717-3737 台北市敦化北路 240 号

西門紅樓／西門紅楼
The Red House
(02)2311-9380 台北市成都路 10 号

光點台北／光点台北
SPOT-Taipei Film House
(02)2778-2991 台北市中山北路二段 18 号

台北市政府市民服務組／
台北市役所市民サービスカウンター
The public service group of Taipei City Government
(02)2720-8889／1999 内線 1000
台北市市府路 1 号

北投溫泉博物館／北投温泉博物館
Beitou Hot Spring Museum
(02)2893-9981 台北市中山路 2 号

士林官邸／士林官邸
Shilin Official Residence
(02)2883-6340 台北市福林路 60 号

台北市孔廟／台北市孔子廟
Taipei Confucius Temple
(02)2592-3924 台北市大龍街 275 号

松山文創園區／
松山文化クリエイティブパーク
Songshan Cultural and Creative Park
(02)2765-1388 台北市光復南路 133 号

華山 1914 文化創意產業園區／
華山 1914 文化クリエイティブパーク
Huashan 1914 Creative Park
(02)2358-1914 台北市八德路一段 1 号

國立臺灣博物館／国立台湾博物館
National Taiwan Museum
(02)2382-2566 台北市襄陽路 2 号

台北市旅遊服務中心／
台北市観光案内所
Visitor Information Centers in Taipei
（詳細 P. 64 参照）

MRT 各駅
All Stations of MRT Lines

伊是咖啡／ IS コーヒー
IS Coffee

摩斯漢堡／モスバーガー
Mos Burger

亞典圖書公司／亜典書店
Art Land Book Co. Ltd.
(02)2784-5166 台北市仁愛路三段 122 号

誠品書店／誠品書店
eslite Bookstore

金石堂書店／金石堂書店
Kingstone Bookstore

編集者の言葉

創意の都市・台北を照らす輝き



だんだん春らしい暖かさが感じられる台北、この都市には無限の創意があふれています。活気がみなぎり発展する各産業や、次世代経営者の画期的な考え方のいずれにもうかがい知ることができます。今号のカバーストーリーでは、老舗飲食店の方向転換のプロセスや、手作り靴、ユニークなファッション、デザイングッズ、フラワーデザインを手掛ける人々の起業の物語をお届けします。

「今年は心機一転！」2018 年台北ランタンフェスティバルのアートディレクター、何景揚さんには、人気バンド、蘇打緑（ソーダグリーン）のギタリストでリーダーの阿福（アフー）という別の顔があります。今年の台北ランタンフェスはこれまでと異なり、200 人余りのアーティストとともに、創意のパワーに満ちた素晴らしいアートでイベントを彩りました。若いアーティストたちが垣根を越え自分の長所を生かして、この伝統行事をいかに解釈したかを表現してくれました。

また、交通パス「北北基おもしろカード」を使って台湾北部を存分に楽しむ方法をお教えしましょう。色とりどりの花が満開となる季節の陽明山を訪れたり、北投で現存する最古の公衆浴場「瀧乃湯」を楽しんだり、中山北路の「条通」をぶらぶらしつつ昔と今を感じたり、赤峰街の路地裏をそぞろ歩き、新旧交錯する文化を体感したりと、このカードがあればきっぷ購入に並ぶことなく公共交通網を利用し、存分に台北を遊ぶ時間がたっぷり取れます。

美食は、経験豊富な日本人ジャーナリストの野嶋剛さんが手放しで認める台湾で最も魅力的なものです。特に台湾のどこでも見られる豆乳店や、街角のお財布にやさしい小吃など、ちょうど作家の焦桐さんおすすめの台湾風お粥にも通じるものがあり、味わい深い庶民の暮らしの姿を描き出してくれます。このほか、それぞれ特色ある料理の達人 2 人を取り上げています。「家宴（おもてなしのごちそう）」の蔡珠児さんと、食材に真摯に向き合う料理人、陳之穎さんに、自然な食の考え方を教えてもらいましょう。

目次

カバーストーリー

04 伝統と革新で道を切り拓く
台北の産業界に脈打つ新たな鼓動



07 未来を切り拓く「自分だけの個性」
アイデアと遊び心でファッションに新風

11 伝統と革新が生んだ
心打つ老舗の味わい

16 平凡なものを素敵に変える
デザイナーの手が創る生活のぬくもり



台北の「今」

20 すいすいお得な台湾北部
北北基おもしろカード

22 春の日、幸せ、愛で満たされる
2018台北ツツジフェスティバル

27 **花で繋がる二つの文化**



台北を遊ぶ

28 北投の古い邸宅と名士をめぐる物語

31 北投の「少帥禅園」で張学良をしのぶ



34 瀧乃湯と皇太子裕仁親王

36 昔と今が行き交い溶け合う
中山北路「条通」と赤峰街移ろいゆく人々の暮らし

42 歩く、考える、書く
野嶋剛さん流・台北の味わい方

46 地球の多様な文化の探検家
セントクリストファー・ネーヴィス駐台大使ジャスミン・ハギンズさん



都市美食探検

50 食卓に幸せの温もり
蔡珠児さんの おもてなし家庭料理



54 地元食材を生かす極上の饗宴
食材本来の味を追求する料理人 陳之穎さん

56 台湾人の理想の朝ごはん
台湾風お粥食べ比べ

芸術を楽しむ

59 ミュージシャンの感性で伝統に新風
心機一転・ 幸せ伝えるランタンフェス 蘇打緑・阿福さん



TAIPEI　郵政劃撥（郵便振替）での定期購読について：6 期
振替口座番号：16630048
振替口座名義：台北市観光伝播局

台湾国内	NT$180 元	（普通郵便で発送）
香港、マカオ	NT$540 元	（航空便で発送）
アジア太平洋地域	NT$660 元	（航空便で発送）
ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ地域	NT$900 元	（航空便で発送）

TAIPEI

台北
春季号　**2018** Vol. 11

発行人　陳思宇
編集長　謝佩君
副編集長　陳盈帆
編集　司徒懿・林冠宇・李筱薇・林姿睿
整合行銷　莊淑媚・李炎欣
翻訳　津村葵・杉山悦子・平松靖史・冨永圭太
デザイン・印刷　四點設計有限公司
Tel　(02)2321-5942
Fax　(02)2321-5944

台北市観光伝播局
住所　台北市市府路 1 号 4 階
Tel　1999 (台北市外からは 02-2720-8889) 内線 2029 または 7564
Fax　(02)2720-5909
Email　qa-juliast@mail.taipei.gov.tw
ISSN　24137774
GPN　2010402343
中華郵政台北雑字
第 1377 號執照登記為雜誌交寄
本号定価 NT$30 元
本誌に対するご意見、ご希望などがございましたら、是非、E-mail またはファックスにてお寄せください。

オンライン雑誌：
https://www.travel.taipei/ja > マルチメディア > 出版物 / TAIPEI

台北市観光伝播局
書面による許可なく本誌の全部または一部を複製・複写することはできません。

PRINTED WITH SOY INK　本誌は大豆インクを採用しています。

伝統と革新で道を切り拓く

台北の産業界に脈打つ新たな鼓動

文＿王瑞芬　　**写真**＿台北市産業発展局、聯合知識庫

台北市は「2016 世界デザイン首都（WDC）」として、さまざまなデザインによる都市振興プロジェクトを行い、グローバルな流行に地球温暖化対策、環境保護、健康、ロハスといったテーマを取り入れた次世代のデザイン・コンセプトを提示しました。それは台北市が推進する「イノベーション・創業」、「食・農共生」、「生活産業」、「省エネ・持続可能」といった産業政策の方針とも一致していることから、衣食や暮らしに関わる業界に対し、台北という都市を特色あるものにするよう奨励、指導がなされています。

革新と創造 産業の新たな動力源に

台湾を代表する都市、台北市には人材やリソースが結集するほか、豊かな文化が蓄積され、



製品はデザインと質感を兼ね備えてこそ世界へとはばたくことが可能になります。（写真／台北市産業発展局）

伝統の保持とイノベーションの間から、新しさや変化を求めるソフトパワーが生まれています。そんな中、台北市産業発展局は自らが旗振り役となって、各産業が勇気を持って新たな試みに踏み出せるよう支援を行っています。同局の林崇傑局長は、歴史が移り変わるのに伴い、台北市は他国の首都と比べてより豊かで多元的な文化や負けず嫌いの精神が培われ、これが



台北市では展示会の開催を通じて人材などリソースを結集させ、より特色ある産業文化を生み出しています。(写真／聯合知識庫、台北画刊600期)

秀でた文化的創造性を次々と発揮する理由となっていると指摘します。

新たに創造された作品を市場の競争に耐え得る商品へと変え、さらにブランドを立ち上げて世界へ進出し、持続可能な経営モデルを確立するためには、アイデアだけではなく、マーケティングに関する専門的見地からの考察もまた必要となります。台北市青年創業協会の宋京達理事長は、ブライダル事業に従事してきた自身の経験を基に、イノベーションとクリエーティビティは現在、どの産業にとっても不可欠な要素となっているが、パッケージのデザインだけでなく製品のイメージや質感を確立し、世界の舞台へと飛び出し誇りを持つことが必要だと指摘します。



(写真／台北市産業発展局)

創造力豊かな人材が集結 産業の推進力に

これまで多くの企業は土地、資本、労働力の確保に大きな力を注いで来ました。しかし林崇傑局長は、今、最も重要なのは人材を世界



台北には豊かで多元的な文化が根付き、新しさや変化を求めるソフトパワーが生まれています。（写真／聯合知識庫、台北画刊600期）

的に流動させることであり、人材の交流や協力により、他とは違った創造のエネルギーを生み出すことだと指摘します。グローバル化が進む中、人材は即、競争力につながります。人材を引きつける環境を整備して健全な競争を促し、相互に刺激し合う場を作り出すこと、これこそが台北市が現在、実現を目指して取り組んでいるテーマです。都市の中にさまざまな新興産業が集まれば、そこからオリジナリティーあふれるライフスタイルが現れ、都市の新たな魅力となります。そしてさらに人材や資本を呼び込み、各分野で切磋琢磨と多様な発展が促され、台北市の産業界に新しい風が吹き込まれます。

台北のファッション、飲食、文化・クリエーティブ業界では今まさに、イノベーションが発揮され、伝統的な文化と世界観が融合した独自のスタイルが生まれようとしています。私たちがこれまで当たり前だと感じていた生活上の要素に新たな価値が加わることでオリジナリティーが生まれ、産業界を活気づけています。こうした現象は世界的にも高い評価を受けており、ファッション、グルメ、文化・クリエーティブといった言葉は今や、台北の代名詞ともなっています。手作り靴やオリジナルなファッション、新たに生まれ変わった老舗飲食店といった流行りの分野だけでなく、フラワーアレンジメント、冷たいイメージのセメントを使ったデザイングッズなど生活を彩る商品が台北に活力を注入し、この都市に変化を生み出す大きなエネルギーとなっています。

未来を切り拓く「自分だけの個性」

アイデアと遊び心でファッションに新風

文 __ 黄星若　　**写真** __ 黄建彬



大量生産が当たり前の時代に、愛花製作所は自分だけのデザインの靴という独自の路線を踏み出しました。（写真／黄建彬）

ファッションやデザインの歴史を紐解けば、すぐに分かることがあります。流行とは大抵、一時的なものに過ぎず、時代の洗礼を受けてなお、揺るぎない人気を保ち続けてはじめて「定番」となるということです。そこでファッション業界では、目まぐるしく変化する潮流の中でいかに埋もれないかということが最大の課題となります。台北の街角では今、世界的ブランドとファストファッションのはざまから、新たなトレンドが密かに生まれています。力強いデザインのエネルギーを武器に、フリーマーケットやインターネットの後押しを受けた他にはない個性あふれるスタイル。これが徐々に多くの台北人、さらには外国人の心を捉え、あなどれない勢力へと成長しています。

愛花製作所
足もとに自分だけの輝きを

靴のデザインはファッション業界の重要な一角を占めています。現在、靴といえば一般的に大規模工場で機械生産され、価格は低く抑えられています。しかし、こうした製品は個性に欠ける嫌いがあることから、オーダーメードの手作り靴が再び脚光を浴びるようになっています。





愛花製作所の陳永昌さんは、顧客に合わせて個性的で快適な靴を自ら手掛けます。（写真／黄建彬）

「愛花製作所」誕生の背景には、あるラブストーリーが隠されています。この物語の主人公は、意中の女性に告白し、彼女の気持ちを射止めるため、自らの手でストラップシューズを仕立てようと思いつきました。その後、彼女はめでたく人生のパートナーとなるのですが、この女性がフラワーデザイナーだったことから店名は「愛花」と名付けられました。

物語の主人公、陳永昌さんとそのお相手、琇涵さんはコーヒーショップの傍らの小さなフリーマーケットからスタート。台北市内の大小様々なフリーマーケットや誠品書店、華山 1914 文化創意産業園区などいろいろな場所にポップアップ・ストアを開設しました。口コミやインターネットを通じて徐々に知名度が上がり、熱烈なファンを数多く獲得。香港や欧米からも評判を耳にしたお客さんが来店するようになりました。

オーダーメードの手作り靴には機械で作った製品とは比べようのない本物の温もりがあると陳さんはいいます。型紙作りから布や革の裁断、釣り込み、磨き、縫製、靴底の貼付けといった工程を経て誕生する靴は、顧客が自分で選んだ材料、カラー、花柄の組み合わせを基に、陳さんが心血注いで作り上げたもので、一足一足にその靴だけの個性が宿っています。

ファッション業界のトレンドは目まぐるしく変化しますが、陳さん夫妻は自分たちの手作り靴に強い自信を持ち続けています。「人の好みは変わるもの」そう語る陳さんは、消費者がモノを買う決め手は価格だけではないと指摘。ある人はブランドを、ある人は機能性を重視しますが、それとは別に「自分だけの個性」を追い求める人もいて、手作りの靴はこうした人たちにぴったりだと訴えます。



手作りシューズは、材料、カラー、花柄の組み合わせを顧客自ら選んで作られ、一足一足にその靴だけの個性が宿っています。（写真／黄建彬）



鹿皮 LOOPY のオーナー、林呱呱さんはおしゃれな服に自由奔放なアイデアを注入します。（写真／黄建彬）

履きやすくて、快適で、リーズナブルで、オリジナリティーがある。陳さんは自分が作るオーダーメード靴をこう評します。「愛」を出発点として誕生し、誠実な仕事ぶりで人々の足を温かく包む靴は、台北の靴業界をより個性的なものとすることに一役買っています。

鹿皮 LOOPY
遊び心あふれるおしゃれを

「鹿皮 LOOPY」を取材に訪れると、この店の女性オーナーは開口一番、「（今まで名乗っていた）嘎嘎（ガーガー）って愛称の人は多すぎるみたいだから、今から『林呱呱（グアーグアー）』に改名するわ」と告げました。そんな自由奔放でナンセンス、かつ人を驚かせて止まない言動を見せるオーナーとこの店の商品にはどこか共通する個性があるようです。

「頭がおかしい、間抜け」という意味の俗語、「LOOPY」を屋号に持つ「鹿皮 LOOPY」の店内には、その名にふさわしく、いたる所にナンセンスなユーモアがあふれていて、思わず笑みがこぼれます。店のオーナーはとても若い一組の男女で、オープン当初はまだ大学 3 年生だったそうです。

「大学でインダストリアルデザインを学んでいて、先生からトースターをデザインするように言われた時、私はトースターにワニの口の形をしたゲームを仕込んだの。ゲームを終えてはじめてワニの口から『ポン！』という音がして口を閉じトーストを焼き始めるのよ」。女性オーナーの「林呱呱」さんは、笑いながら大学時代の作品について話してくれました。想像を超えたデザインの才能は学生のころから存分に発揮されていたようですが、こうしたコミカルな作品は、先生によって次々と却下されたそうです。当時のことを振り返り、「納得がいかないと思いながら、自分たちが作りためた作品を人に見せたいと考えるようになり、インターネットを利用したり、フリーマーケットに出品したりして、最終的に店を開くことに決めたの」と語ります。こうして鹿皮 LOOPY が誕生したのです。

大学 3 年生だった 2 人は商品のデザインに取り組むかたわら、店舗を経営するという勉強も始めました。赤字続きだった開店当初から、ようやく利益が出るようになるまでには



鹿皮 LOOPY の服にはデザイナーの豊かなアイデアが表現されています。（写真／黄建彬）

度重なる挫折を繰り返し、少なからぬ授業料を支払うことになりました。ただ、幸いなことに 2 人がデザインに対する志を失うことはなく、頭の中に浮かんだ奇妙キテレツなアイデアを商品化し、「楽しさの素」を届け続けています。

低価格のファストファッションが隆盛を極める昨今、台湾の服飾業界はとても厳しい状況に置かれています。しかしメード・イン・タイワン（MIT 台湾製）という言葉が象徴するのは品質の高さだと考える林さんは、綿花の選択から生地の品質、縫製、染料が環境にやさしいかどうかといったことまで細部にこだわり、いい加減な仕事を自分に許しません。こうした態度こそ、不景気の中で鹿皮 LOOPY が成長を続ける理由なのかもしれません。

やみくもに流行を追わず、自分のやり方を貫き、質の高い生地や縫製で、思わず笑みがこぼれるような癒やしのデザインの鹿皮 LOOPY は、台北のファッション業界に新たな方向性を示すとともに、若者による起業に無限の可能性を切り拓いたと言えるでしょう。

伝統と革新が生んだ
心打つ老舗の味わい

文＿張文馨　　**写真**＿黄建彬



（写真／黄建彬）



70 年以上の歴史を持つ「合興糕糰店」は伝統を受け継いだ娘夫婦の革新によって老舗ブランドとして生き残る道を見出しました。（写真／黄建彬）

美食とは、お腹を満たすためだけのものではなく、ある地域の生活と文化を映し出すものでもあります。百年の歴史ある老舗から創作料理の店までさまざまな美食が集まる台北には、街のあちこちに「食」に対する懐の深さが表れています。台北市は近年、ユニークな各産業の再生を促進してきました。食を扱う事業者に対してはブランドの再構築、ストーリーマーケティングの導入、支払い方法の利便化などをサポートし、質の向上やブランドの価値を高めるのを支援するだけでなく、台北市の観光収入の増加にも繋がっています。この変革が持つ力はあなどれません。

合興壹玖肆柒
すみずみまで責任

1947 年創業の「上海合興糕糰店」。70 年以上にわたり南門市場の中華菓子店を代表する存在でしたが、食習慣の変化による影響を免れることはできず、客が日を追うごとに減っていました。若い世代は昔ながらのお菓子の美味しさをほとんど知りません。

二代目店主である任台興さんは老舗にも変革が必要だと分かっていましたが、なすすべがありませんでした。そんな時、イギリスでデザ



「合興壹玖肆柒」の新商品は昔ながらの味わいを守っています。（写真／黄建彬）

インの勉強を終えた娘の任佳倫さんとその夫、鄭匡佑さんが帰国し、若い世代のアイデアを提案します。そこで、昔ながらの味を大切にしつつ活路を見出そうと、南門市場の老舗とは異なる全く新しいスタイルの「合興壹玖肆柒」を大稲埕に出すことを決心しました。小さな空間ですが、老舗の物語を伝える舞台となっています。店頭に並ぶ菓子のほとんどは南門市場の店と同じもので、常連客も新しい空間で慣れ親しんだ味を見つけることができます。

伝統から革新へ、異なる世代の考え方は相容れない部分が必ずあり、歩み寄りが必要です。



任佳倫さんと鄭匡佑さんは創業当初、「ブランド」という新しい考え方を導入するよう年配者を説得しなければならなかった、と振り返ります。さらに新しい商品や店舗にも家族の味わいを留めなければならず、取捨選択とバランスを取る中で多くの問題に直面したそうです。幸い家族の支持が得られ、新商品の開発にあたっては父親が作り方を指導してくれたため、店本来の風味を守ることができたと言います。

「作りたてを食べるお客様の顔が見たい」店主が何気なく口にした願いが「合興壹玖肆柒」の店作りに素晴らしいアイデアをもたらしました。中華式ケーキは蒸したてが一番美味しく、冷えたり再加熱したりすると食感が変わってしまいます。客に最高の味を楽しんでもらうため、開店後はこんろの火をずっとつけたままにして商品を蒸しているので、店内で香り高く柔らかなケーキがすぐ味わえます。職人の手で1つ1つ作るケーキは手間も時間もかかりますが、この繊細な食感は手作りならではこその美味しさです。



「老済安青草店」は新たな取り組みで伝統的な薬草茶と青草文化を後世に伝えます。（写真／黄建彬）

若い夫婦が背負った老舗を受け継ぐという使命には「変わる」ものと「変わらない」ものがあります。「材料はどれもシンプルで天然のものです。これらは祖父から受け継いだ製法で、私たちは一口一口に責任があるのです」老舗の変革は時代の流れであり、空間のデザインや商品パッケージが人目を引くかもしれません。しかし2人は老舗がこれからも代々続いていくためには「商品」こそ基本であり、容易に妥協しない姿勢こそが大事だとよく知っています。

老済安青草店
心と体を癒す薬草茶

「老済安青草店」は万華の青草巷（青草通り）にある薬草店です。3代続く店の経営は安定していましたが、店主の王栄貴さんは青草文化が段々と衰退していくのを強く感じていました。消費者は青草の質を見極める方法も知らず、理解は限られています。そこで、台北市産業発展局が老舗再生計画を始動させた時、王さんは店を生まれ変わらせようと思い立ちました。

王柏諺さんは小さい時から父親とともに青草に親しみ、自然と薬草の知識を身につけました。外の仕事を辞めて父の仕事を継いだ後、専門家チームのサポートの下で父と力を合わせ、倉庫を青草文化を伝える場とした全く新しい店作りに取りかかりました。

青草販売は斜陽産業だと言われることについて王柏諺さんは、それは人々が青草をよく知らないためだと感慨深げに言います。新しく生まれ変わった「老済安青草店」は 1 杯ずつ手で入れた薬草茶を提供、カウンター席で消費者との距離を縮めています。店内では薬草茶作りも体験できます。ヨモギの香りを嗅ぐことから始まり、視覚、味覚、触覚を使って青草の効果を理解すれば内から外へ身体が癒されていくのを感じます。勤め人のやる気を起こす「神清気爽茶」や身体をいたわる「地錦板藍茶」など、いずれも消費者が薬草をより生活に取り入れやすいようにしたお茶です。このほかにも、テイクアウト用のボトル入りやティーバッグなども販売しています。

革新と伝統を兼ね備えてこそ、青草文化は生き残ることができます。「老済安青草店」は販売スペースやパッケージを改良し、より多様な客層を確実に引きつけるようになりました。また地域と協力して PR 活動にも取り組み、文化を紹介するツアーなどを通じより多くの人々が青草に親しみ、先祖から伝わる知恵と伝統の薬草茶が後世へ受け継がれていくことを願っています。



「老済安青草店」は全く新しい店作りで若い客層を引きつけ、青草文化を広めています。（写真／黄建彬）



老済安青草店は入れ立ての薬草茶スタンドとして生まれ変わり、薬草茶づくりも楽しめます。（写真／黄建彬）

平凡なものを素敵に変える
デザイナーの手が創る生活のぬくもり

文＿張文馨　　**写真**＿劉徳媛

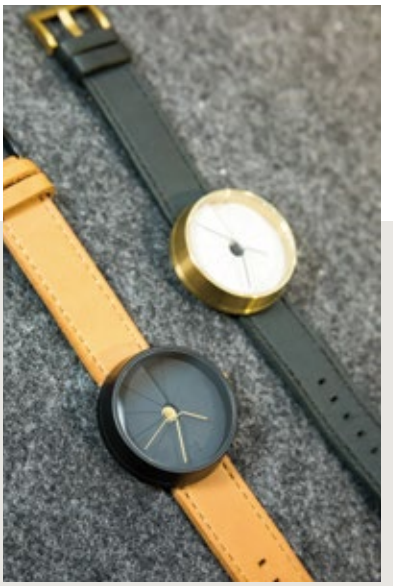
台北はさまざまなデザイン分野の人材とアイデアが集まる大都市です。華山1914文化創意産業園区と松山文創園区だけでなく、各地で不定期に行われるフリーマーケットやデザイン展も新しい風を常に吹きこんでいます。近年、台北で開催されたデザインによる都市振興プロジェクト「2016世界デザイン首都（WDC）」や「台湾デザイン・エキスポ」などの大型イベントはクリエイティブなパワーが結集しただけでなく、人々にさまざまな形でデザインに触れる場を提供しました。デザイナーにとって商品を開発してブランドを立ち上げるまでの道のりは、新しいアイデアだけに頼るのではありません。産業の各方面との協力があってこそ、その創造力をいつまでも持続させることができるのです。



活況が続くフラワーデザインと花き産業は生活を豊かにします。（写真／劉徳媛）

22 Design Studio 初心を忘れないデザイン

古いアパートの1階と地下室。デザイナーの游聲堯さん率いる若いチームが硬く冷たいコンクリートで温かみのある製品を作っています。2005年、大学を卒業したばかりの游さんと鄭伊婷さんは若者らしい情熱とパワーでオリジナル商品「コンクリートリング」を生み出しました。露店販売からオフィスを構えるように



アイデアを商品にすることが産業を持続可能にする道です。（写真／劉徳媛）



硬く冷たいコンクリートが創造力によって温かみのある時計になります。（写真／劉徳媛）



游聲堯さんは情熱とクリエーティビティを冷たいコンクリートを使った製品に注ぎます。（写真／劉徳媛）

なり、さらにクラウドファンディングで資金を集めブランドを立ち上げます。22 歳のあの頃の初心こそが最も大切だと考え、その青春時代を記念するために「22 Design Studio」というブランド名をつけました。この名前で初心を忘れぬよう自分自身に言い聞かせているのだそうです。

「コンクリートリストウォッチ」は「22 Design Studio」ブランドの中で人々に知られるようになった最初の商品です。クラウドファンディングサイト「嘖嘖 zeczec」でブランドをアピール、資金集めに成功しました。游さんはアイデアを商品にし、さらにコンセプトショップをオープンさせます。現在「22 Design Studio」の製品にはシャープペンシルや各種の時計があり、「四度空間リストウォッチ」は改良に改良が重ねられました。歩留まりの低いコンクリート製品にとって、新たなアイデアの実現はどれもが大きな挑戦です。

クラウドファンディングは気軽に夢を実現する手段だとばかり思われています。しかし、游さんが悟ったのは、クラウドファンディングの成功は、運ではなくデザイナーのコンセプトとアイデアを商品化できるかどうかにかかっているということです。新たなブランドはそのストーリーを語り続け、常に人々とコミュニケーションを図らねばなりません。とくにクラウドファンディングはブランドに対する人々の信用に頼るもので、「誠実」であってこそ製品は支持され続けることができます。またクラウドファンディングを通じたフィードバックによって、アイデアが市場のニーズにマッチしているかを知ることもできる、と游さんは言います。



アートとカルチャーは台北の産業を動かす力です。多くの若者がアイデアと資源を共有してさまざまな新商品を生み出しています。（写真／劉徳媛）



路地裏にひっそりとたたずむ「22 Design Studio」にはデザインアトリエと工房があり、近所には同じように起業したデザイナーが数人います。路地裏、家屋、アパートに人々が集まってお互いに協力し、資源を共有し、小さなデザインの集積地を形成する、これは今や台北のデザイン産業が生きていくための道となり、そこにはさまざまな新しいデザインが開花しています。

S. FLOWER 石花・芸 自然を生活の中へ

花き産業とフラワーデザイン産業は切り離すことができません。彩りを添え環境を美しくしたり、年中行事や祝い事に飾られたり、こうして花を利用することで、花き産業とフラワーデザイン産業は成長し続けています。花は人々の生活が豊かになったことを象徴するだけでなく、経済発展の重要な指標ともなっています。

「S. FLOWER 石花・芸」のデザイナー、石仁傑さんは、フラワーデザインの世界に入って 20 年近くになります。子どもの頃から草花を愛する母親や花屋を営む隣人が植物で生活空間を彩るのを見て育ち、自然に草花に興味を持つようになり、知識を身につけた石さんは、やがてフラワーデザイナーとなり、自然を生活の中に取り込むことに力を注ぐようになりました。

四方を山に囲まれた台北では、大自然に親しむことは難しくありません。さらに花き市場やフラワーデザインの展覧会で、海外のファッショントレンド情報も容易に手に入ります。フラワーデザイン産業は活況が続き、近年では起業を目指す若い世代に人気です。多くの人がフラワーデザイナーという職業に無限の夢を抱いていますが、石さんはこの仕事の背後にある難しさと苦労をこう話します。まずフラワーデザインは材料費が大きな問題です。ハイクラスの商品を作るためには、材料のコストも高くつ







フラワーデザイン産業は農産業に成長をもたらすだけでなく、生活をより色鮮やかにしてくれます。（写真／劉徳媛）

きます。とくに近年人気のプリザーブドフラワーは台湾の製作技術がまだ成熟しておらず、材料は輸入となるためコストを抑えることはできません。しかし最高の作品を顧客に提供したいと思わないデザイナーはいないので、利益を削ることになるのだそうです。

「S. FLOWER 石花・芸」の顧客は現在ほとんどが企業で、町中にある花屋とは少し異なります。しかしどのような規模の店であれ、ネットショップは重要な販路です。ネットショップはフラワーデザイナーにとって便利なだけでなく、プロフェッショナルの重要性をより際立たせます。草花の本来の姿をよく理解していること、さらに芸術を観賞して感性を磨いておくことなど、基礎がしっかりしていなければ、やみくもに起業するのは危険でしょう。石さんは近年、フラワーデザインを教えることと作品の創作に打ち込んでいます。中国から招かれることもよくあり、台湾のフラワーデザイン産業にとって良い刺激となっていることは間違いないでしょう。

フラワーデザインは自然を生活に取り入れ、コンクリートだらけの都市に豊かな生命力と色彩を添えてくれます。フラワーデザイナーの努力が台北の産業に活力と繁栄をもたらし、都会の生活をより美しいものにしていくのです。



石仁傑さんはフラワーデザインで生活をより素晴らしく彩ります。（写真／劉徳媛）

すいすいお得な台湾北部 北北基おもしろカード

文 ＿ 台北市観光伝播局
写真 ＿ 台北市観光伝播局、台北 101 ビル展望台、国立故宮博物院





財布の中に一枚あるだけで、台北市、新北市、基隆市の人気スポットをめぐり放題のカードがあります。有効期間中はさまざまな公共交通機関で何度でも利用でき、交通費はおろかきっぷ購入に並ぶ時間まで節約できます。この台湾北部をめぐるのに一押しのカードが、「Taipei Fun Pass 北北基おもしろカード」（Taipei Fun Pass 北北基好玩卡）です。

台湾初　スポットと交通が一枚で利用し放題

北北基おもしろカードには、台湾初「交通＋スポット」の「無限周遊カード」と、交通のみの「交通周遊カード」の二種類あります。いずれも有効期間中は台北メトロ（MRT）、台北市と新北市の路線バス（路線番号 4 桁のものを除く）、陽明山や野柳、平渓などをめぐる「台湾好行」シャトルバスの 5 路線が乗り放題となります。

「無限周遊カード」はなんと、観光スポット 12 カ所の入場料も含まれています。都心の台北 101 ビル展望台や国立故宮博物院から、さらに新北市の野柳や基隆市の国立海洋科技博物館まで、台湾北部の豊かな文化を思う存分楽しむことができます。

北北基おもしろカードで旅がぐっと豊かに

公共交通機関の運賃と観光スポットの入場料が含まれるだけでなく、このカードにはオプションのおすすめプランがあります。朝市で



台北 101 ビル展望台からは、台北の全景が存分に望めます。（写真／台北 101 ビル展望台）



北北基おもしろカード「無限周遊カード」は台湾北部の人気スポット 12 カ所をめぐり放題。（写真／国立故宮博物院）

地元の新鮮な食材を味わってみたり、料理人の指導でこの土地ならではの美食の料理体験をしてみたり、伝統的な台湾料理をいただきながら見応えある布袋戯（台湾の伝統人形劇・ボテヒ）を鑑賞したりと、半日や一日の短い時間で地元を楽しみつつ、台湾北部の暮らしの様子を見て、味わって、体験することができます。

「北北基おもしろカード」はオフィシャルウェブサイトやモバイルデバイス用アプリで、定番の、面白く、豊かな歴史にふれられる、台湾情緒満点のおすすめプランを提案しています。食べる、泊まる、遊ぶ、買う、めぐる、のさまざまなニーズを満たし、台北市・新北市・基隆市をお得で便利に、旅の醍醐味を存分に味わうためのお供にぜひどうぞ！

北北基おもしろカード

ウェブサイト
Web

アプリダウンロード
App

無限周遊カードに入場料が含まれる人気 12 スポット

台北 101 ビル展望台、国立故宮博物院、士林官邸本館、児童新楽園、美麗華百楽園観覧車、淡水古跡博物館、淡水～漁人碼頭の往復クルーズ、黄金博物館、野柳地質公園、朱銘美術館、ポリス・スカイランタン館、国立海洋科技博物館

北北基おもしろカード

カードの種類 / 内容	 **無限周遊カード** 必見スポットの入場チケットと交通機関乗り放題含む	 **交通周遊カード** 交通機関乗り放題
価格	1 日 / 2 日 / 3 日券 NT$ 1,200/1,600/1,900	1 日 / 2 日 / 3 日 / 5 日 / 猫空ロープウェー 1 日券 NT$ 180/310/440/700/350
人気観光スポット 12 カ所の入場チケット	○	
台北 MRT 乗り放題	○	○
台湾好行観光バス 5 路線乗り放題	○	○
台北市と新北市の路線バス乗り放題（路線番号 4 桁のバスを除く）	○	○
電子優待券	○	
100 カ所超の特約店での優待	○	○



春の日、幸せ、愛で満たされる
2018 台北ツツジフェスティバル

文＿張文馨　　写真＿黄建彬、台北市観光伝播局、Shutterstock.com

（写真／台北市観光伝播局）

街いっぱいの花々が満開で春の到来を迎えます。陽明山フラワーフェスティバルを皮切りに、2018 台北ツツジフェスティバル、竹子湖のカラーフェスティバル（カラー＝オランダカイウ）が次々と行われ、台北の人々も色とりどりの花のじゅうたんを愛でながら春の訪れを祝います。



ツツジの花 謎を解く暗号は

台北市内では道端や公園など、あちこちで美しい花を付けたツツジの姿を見ることができ、そこに暮らす人々にとって、とても親しみ深い花だといえます。ツツジは台北市の花に指定されるなど、この街に深いかかわりを持ちます。ところが、それほど身近なツツジにも知る人ぞ知る秘密がたくさんあるようです。

国立台湾大学園芸・景観学科の張育森教授によると、台湾でよくみられるツツジは大きく分けて、中～高海抜地帯に生育する台湾原生種、バラのような八重咲きの西洋ツツジ、色彩豊かなサツキツツジ、花と葉がやや小ぶりのクルメツツジ、台北市で最もよく見られるヒラドツツジの 5 種類があります。花の形や生育上の特徴、見ごろなどにも注意し、それぞれの良さを楽しみながら鑑賞しましょう。では、開花時期をどうやって予測するのでしょうか。張教授は「5.8 ミリメートル」が謎解きの暗号だと言います。

「ツツジが満開になるのは 3 月ですが、花芽は前年の夏の終わりから秋のはじめにかけすでに形成されています。その後、気温が下がり絶好の状態になるのを待って、スイッチが入ったように花がぱあっと咲くのです」。長年ツツジを研究する張教授は、自身の研究チームととも



張育森教授はツツジ鑑賞の秘訣を教えてくれます。（写真／黄建彬）

に、つぼみが幅「5.8 ミリメートル」になったときの気温で満開の時期を予測しています。今年の満開予想は 3 月上旬。寒気の影響でやや遅れるものの、暖かさが戻れば満開となり、色とりどりの華やかなツツジが見られるもようです。

にじむ水彩
春の美しさ描き出す

2018 台北ツツジフェスティバルは、春の神様が素敵な知らせをもたらし、この街がより幸せに、より愛にあふれるようにとの願いを込め、「春の日、幸せ、愛で満たされる」をテーマに掲げています。今回のイベントは世界的なデザイナーの蕭青陽さんがメインビジュアルを担当しています。



蕭さんはこれまでのクールな色合いのデザインと異なり、水彩がにじむタッチとやわらかいパステルカラーで春のロマンチックな雰囲気を表現しています。花の美しさが人々のうちに愛を芽生えさせ、絵を描きたくなるような気持ちにさせてくれます。ラッピングペーパー模様のようなフォントは、美しいツツジが「街を包み込む」ように、台北という都市に彩りを添えるさまを象徴しています。

ツツジがもたらすインスピレーションについての話になると、蕭さんは子供のころの思い出の歌を口ずさみました。「ほのかな三月の空／ツツジが山の斜面に、小川のそばに咲く／ああほんとうにきれい」。蕭さんはある時、お年寄りがこの歌を歌ったり、家族や友人にツツジの絵を送ったりするのを好むということに気付きました。そこで、お年寄りにとってツツジは身近な存





デザイナーの蕭青陽さんは 2018 台北ツツジフェスティバルのメインビジュアルを担当。（写真／黄建彬、台北市観光伝播局）





春の到来を告げてくれるツツジの花は、市内のあちこちで楽しめます。
（写真／ Shutterstock.com）

在であるだけでなく、親しみやすさや祝福のイメージが強く、愛する人と春の訪れを分かち合うのに適しているのだろうと理解しました。今回の作品を手掛けるうちに、ツツジにどんどん興味が生まれ「描いている間にもたくさんの疑問が湧き、もっと知りたくなりました。そしてより多くを知ったことでさらにその美しさに気付きました」と語ります。

お花見・音楽・ピクニック 喜びのひととき

観光伝播局都市観光課の朱品澤課長は、台北ツツジフェスティバルを「地元によりそいながら国際化、商業化」された都市の祭典にし、より多くの人々に花の季節を楽しんでほしいと言います。フェスティバルの各イベントは 3 月 14 日スタート。大安・中正区役所が開催する講座やガイドツアー、台北市中山堂と大安森林公園の「ツツジクラシック音楽祭」、新生南路の懐恩堂近くのフリーマーケット「幸福カーニバル」、大安森林公園の「ピクニック音楽会」など一連のイベントではすべて、この街でツツジが象徴する幸せと愛がみなさんに届くようにとの願いが込められています。

イベントだけでなく、台湾大学キャンパスや大安森林公園、台北市内のツツジの花が顔をのぞかせる街道をそぞろ歩きしながらのお花見



ツツジは種類によってそれぞれ形や生息育のようすに特徴があります。写真はヒラドツツジ。（写真／台北市観光伝播局）

も楽しめます。中華路や仁愛路、信義路、新生南路といった幹線道路を走る路線バスに乗れば、台北市南部の華やかに咲くツツジの美しい光景が鑑賞できます。またこのシーズン、公館商圏と師大商圏の商店が協力し、100 台湾元の消費で航空券が当たる抽選イベントも行います。ツツジを愛でながら、買い物や食べ歩きなど、見応えも遊び応えもある春の小旅行を楽しんでみてはいかがでしょうか。

3 月の台北は、上品なツツジが喜びを伝えてくれるだけでなく、士林や陽明山一帯でサクラやカラーの花が鑑賞できます。さあ、外に出て春の日の素晴らしい風景を存分に楽しみましょう。

ツツジシーズンお花見攻略法



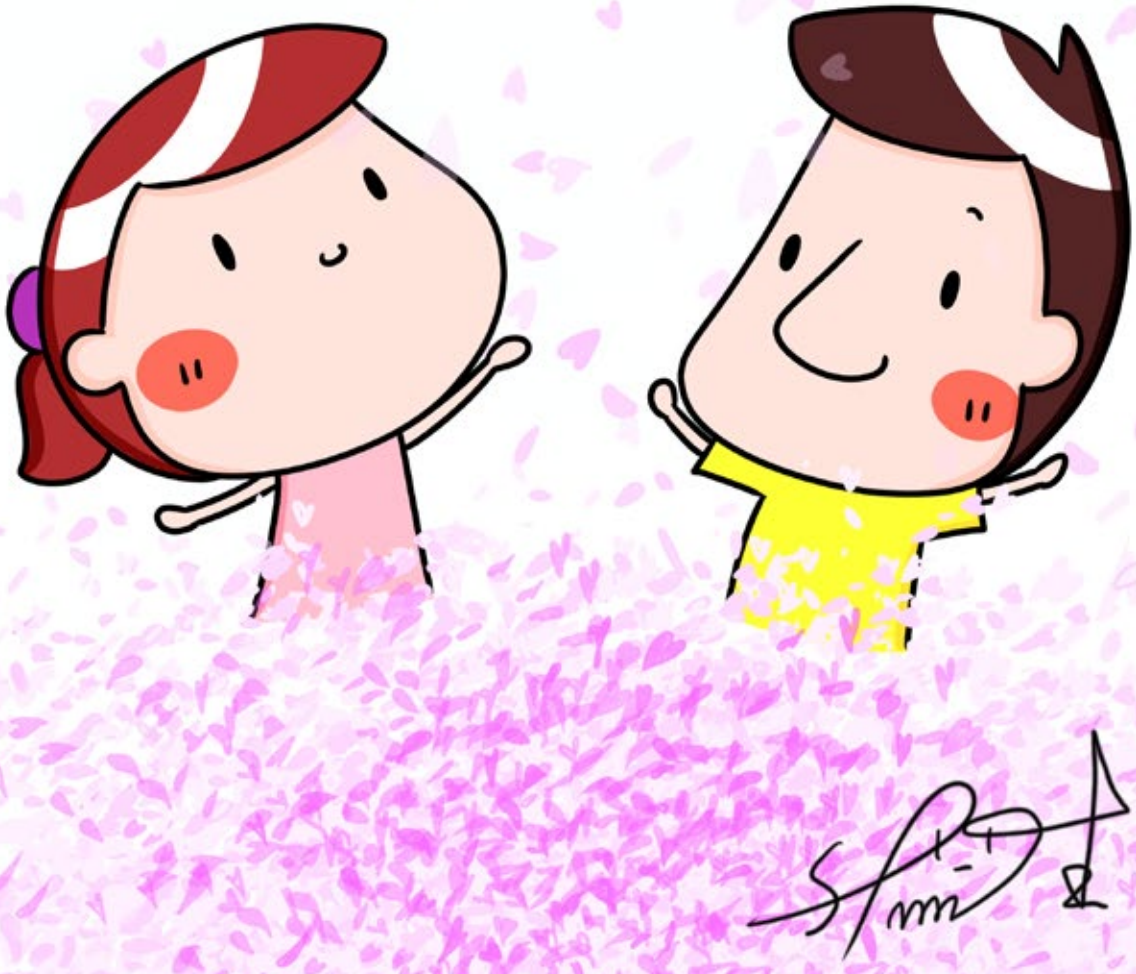
2018 陽明山花季
2/22 (木) ～ 3/25 (日)
北投区陽明公園

2018 台北ツツジフェスティバル
3/14 (水) ～ 4/15 (日)
詳しい情報は QR コードをスキャンしてください

2018 竹子湖カラーフェスティバル
3/30 (金) ～ 4/29 (日)
北投区陽明山竹子湖地域

花で繋がる二つの文化

寒い冬もそろそろ終わり、ぽかぽかと暖かい日が増えてきましたね。こんな日には外に出て、ピンク色の可愛らしい桜の花を見に行きましょう。僕は台湾に来るまで、ここで僕の生まれた日本と同じ桜が見られるとは思っていませんでした。日本では、桜が咲く頃に卒業式と入学式をします。人々はこの花とともに「別れ」、そして「新しい出会い」を経験するので、この花には特別な思いがあります。さぁ、今年の台湾の桜は僕たちにどんな経験をさせてくれるのでしょう。



作・絵 Iku 老師（佐藤生）



北投の古い邸宅と名士をめぐる物語

文 _ 鍾文萍　　**写真** _ 楊智仁、王暁菁

多くの温泉が集まり、老木が影を成す北投。市街地の喧騒とは違った静けさをたたえ、にぎやかな台北市において宝物のような存在で、行楽地としてだけでなく、落ち着いた暮らしを営むのにも適しています。それは政治家をはじめとする多くの名士がここに居を構えたことからもうかがい知ることができます。

こうした名士の邸宅は現在、当時の彼らの普段の暮らしを知り、歴史や時代の雰囲気を追想することができる場所となっています。MRT 新北投駅から光明路や幽雅路に沿って坂道を上れば、小道の奥や山肌にひっそりたたずむ、豊かな物語を持つ古い邸宅を見つけることができます。こうした建物は、百年の歴史を持つ北投温泉郷においてそれぞれの時代の文化を今に伝えています。


（写真／楊智仁）



和洋折衷様式の梅庭は、于右任の旧別荘という歴史的価値も備えています。（写真／楊智仁）



北投梅庭と于右任

于右任は清朝末期の挙人（科挙のうち、郷試に合格した者）で、『神州日報』、『民立報』といった新聞を創刊した経歴を持つため「近代新聞記者の父」と呼ばれるほか、監察院長在任中に監察制度を確立したことから「監察の父」とも称されます。しかしその名を最も世に広く知らしめたのは書道家としての一面で、「読みやすい、書きやすい、正確、美しい」を原則とする「標準草書」を確立し、六朝楷書といった楷書と草書を自然な形で融合させたことにより「一代草聖」と呼ばれ、尊敬を集めています。



（写真／楊智仁）

北投梅庭

北投区中山路 6 号

(02)2897-2647

火 ~ 日曜 09:00~17:00



優雅な静けさをたたえた梅庭の書斎には于右任の書が展示されており、大家の作品を存分に味わうことができます。（写真／楊智仁）

一人になるための隠れ家

人付き合いが良く、交友関係の広かった于右任は 1952 年、北投にあるこの和洋折衷建築を気に入って別荘とし、「梅庭」と名付けて避暑地にすると同時に、誕生日などを人に祝われる煩わしさを避けるための隠れ家として使用しました。

1930 年代に建てられた梅庭は、山と渓流の間に隠れるように建っています。母屋は木造の日本家屋ですが、山あいに位置する北投特有の地形に合わせて二層構造の稜堡（星型要塞）様式を採用しています。1 階部分である上層は石積みの土台に黒い瓦屋根と木枠のガラス戸に囲まれた建物で、下層部は鉄筋コンクリート製の造りとなっています。また、緊急時に裏庭から逃げることができるよう、防空避難用の通路も設けられています。入り口の門柱に于右任自らの手による「梅庭」の文字が刻まれているほか、最も長い時間を過ごしたという書斎には現在、作品の展示スペースが設けられており、于右任の上品かつ力強い書が味わえるとともに、その自然で飾らない生活スタイルをうかがい知ることができます。



足を伸ばして昔懐かしの駅舎へ

新北投駅

北投を訪れる温泉客が増え、1916 年に行楽客の流れを分散させる目的で温泉地へ直行する鉄道の新路線「北投—新北投」支線が開設されました。しかし同支線は 1988 年に MRT 新北投駅が着工を迎えた際に廃止。旧駅舎は彰化県のレジャー施設によって買い取られました。後に、台北市に再び寄贈され、2017 年に元の場所から 50 メートルほど離れた位置で再建工事が完了。現在、北投と各地の芸術・文化を結ぶ場として活用されています。最初の建設、拡張、供用中止、廃線、移設、帰郷と、この駅舎にまつわる百年の歴史をその目で確かめてみてはいかがでしょうか。

新北投駅

北投区七星街 1 号

(02)2891-5558

火 ~ 日曜 10:00~18:00



（写真／王暁菁）



北投の「少帥禅園」で張学良をしのぶ

文＿鍾文萍　　**写真**＿楊智仁



張学良が一時期を過ごした「幽雅招待所」を改築した温泉レストラン「少帥禅園」は行楽客に人気のスポットとなっています。（写真／楊智仁）

張学良はかつて、北投で2年を過ごしました。この「幽雅招待所」は、今では温泉レストラン「少帥禅園」に生まれ変わり、台湾と中国の人々がお互いの国を旅行する新しい時代を迎え、台湾、中国、香港の観光客に人気の観光スポットとなっています。ここを訪れる行楽客が、このレストランで張と趙一荻（張学良の妻）が愛したエビ、フウセイ、山菜などさまざまな珍味を味わいたいと思っていると知ったら、本人は大笑いするでしょうか、あるいは張が晩年過去を語った時のように、沈んだ口調で「（軟禁され）半世紀自由が失われたのは当然のことだ」と嘆いたでしょうか。

西安事件（1936年に起こった蒋介石監禁事件）の首謀者であった張学良は、中華民国初期の軍閥・奉天派の「大帥」（総帥）張作霖の息子であったため「少帥」と呼ばれました。第二次世界大戦後、国民政府とともに台湾に渡った張は、1946年にまず新竹県五峰郷桃山村に軟禁されます。1959年になると、北投の復興三路に建設された住居が完成するまでの2年間、日本統治時代の温泉宿「新高旅社」であった「幽雅招待所」で過ごしました。張学良に対する評価



「少帥私房コース」は海鮮と地元の食材を合わせた素材の味わいと新鮮さを楽しめるメニューです。（写真／楊智仁）



を下すことは難しいですが、住居はまさに絶好のものでした。政府が逃亡を恐れたため、急斜面や谷間に囲まれた場所が選ばれたのです。上品で風流な御曹司として育った張学良にとって、終わりの見えない幽閉生活の中で美食だけが残された唯一の楽しみだったのかもしれません。

張学良が愛した味を楽しもう

当時、張作霖の家には中国南北から優秀な料理人が集まり、400 種類以上もの各地のごちそうを作ることができました。その中で張学良の美食家でありながら好き嫌いのない味覚が育ったのでしょう。生涯にわたりエビが大好物でした。料理人たちは 1928 年から、毎日栄養のバランスを考えて夜食を作り、エビの揚げ物やエビのぶつ切りなどをよく主菜にしました。また張学良が軟禁されていた場所は山の中で、時には住民が行き来することもありました。人々がくれる山菜など野性味あふれる味わいも好んで食べ、どんな調理方法も受け入れたそうです。あるいはこのようなこだわらない食生活が、一生さすらい続けたにもかかわらず 101 歳まで長生きした理由なのかもしれません。

「少帥禅園」が歴史をもとに開発した「少帥」、「大帥」、「四小姐（趙一荻の愛称）」の季節感あふれるコース料理は、歴史がアクセントとなって風味をより豊かにしています。「少帥私房（秘伝）コース」は海鮮と地元の食材に五穀や雑穀など中国・東北地方の主食を合わせたシンプルかつ手の込んだ内容です。張学良とともに幽閉された妻の趙一荻は名家の出身で、西洋文化の影響を強く受けていました。「四小姐コース」は西洋料理の手法で東洋の食材を調理し、さらに張学良が海鮮を好んだことにちなんで魚料理の美味しさを十分に楽しめるメニューとなっています。「大帥私房（秘伝）コース」は張作霖の料理



張学良が使った居間を完全な状態で保存し、一般開放しています。（写真／楊智仁）



温泉レストラン「少帥禅園」は、台湾だけでなく中国や香港の人々にも人気のスポットです。（写真／楊智仁）

人たちが作った料理を受け継いだものです。例えば「燉虎掌（ブタの前足膝の靭帯の煮込み）」は当時の料理人が得意とした料理のひとつです。また「大帥竹午魚（ミナミコノシロ）」は台湾で採れる魚、ミナミコノシロを骨までさくさくに揚げ、別のミナミコノシロを煮込んで作ったたれをかけた料理です。濃厚なたれと油の旨みが互いに味わいを補い、旨みを引き出しています。

張学良が使った居間は、現在も完全な状態で保存されています。また台湾全土で唯一の「張学良紀念亭」には木製の胸像が置かれ、生涯帰ることができなかった故郷のある北東の方向を望んでいます。ここへ来て歴史の荒波や、張学良と趙一荻の愛、そして「山に幽され、降る雨に意気消失す」と詩にうたった心情に思いを馳せてみるのもよいでしょう。このように、北投の古い建築には数多くの物語があります。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



（写真／楊智仁）

少帥禅園

- 北投区幽雅路 34 号
- (02)2893-5336
- 10:00 ～ 21:00（園内のレストラン、日帰り温泉、茶屋の営業時間は異なります。詳細はウェブサイトをご覧ください）
- www.sgarden.com.tw



（写真／楊智仁）

瀧乃湯と皇太子裕仁親王

文＿鍾文萍　　**写真**＿楊智仁

1895 年、台湾初の民営温泉旅館「天狗庵」が北投渓（川）のほとりに開業し、台湾における温泉文化が幕開けました。この温泉旅館に触発された地元住民が 1907 年ごろ、北投渓・第二滝の下方に木材や石を用いて天然の「温泉滝浴場」を開設し、銭湯として営業を開始。滝のそばに入り口があったことから「瀧（滝）乃湯」と名付けられました。入湯料が「三銭」だったため「三仙間」とも呼ばれた瀧乃湯は、日本統治時代に初めて一般市民に利用が開放された大浴場として知られる、北投に現存する最古の公衆浴場です。

瀧乃湯の木造建築や石造りの浴槽はいずれも史跡に指定されています。また、敷地内の庭には「皇太子殿下御渡渉記念碑」と記さ



「皇太子殿下御渡渉記念碑」は、裕仁親王がここを訪れたことを証明する重要な史跡です。（写真／楊智仁）



創業当時から使われる石造りの浴槽。（写真／楊智仁）

瀧乃湯

北投区光明路 244 号

(02)2891-2236

06:30~21:00（水曜定休）



れた石碑が建立されています。これは当時皇太子だった裕仁親王（後の昭和天皇）が大正 12 年（1923 年）4 月に台湾を視察に訪れたことを記念して建てられたものです。目立たない石碑ですが、日本の皇族が北投を訪問したことを証明する重要な史跡となっています。

自然科学を愛好した裕仁親王は、北投を訪れた際、世界でも 2 カ所でしか産出されない、放射線を放出する珍しい鉱石が北投渓で発見されたという情報を耳にし、自ら川床に降りて観察を行いました。その時、皇太子の身の安全を守るために同行していた随行員は、親王が危険な目に遭わずに川を観察できるよう、急遽、第二滝付近から数個の平べったい石を見つくろって飛び石を敷設したといいます。これら飛び石に使用された石はその後、「皇太子殿下御渡渉飛石（皇太子殿下が渡った飛石）」として石碑に説明を加え大切に保存されました。

かつての風情そのままに

第二次世界大戦後、飛び石の多くは行方不明となったため、後の人は新たに「皇太子殿下御渡渉記念碑」を残しましたが、この石碑はある時、何者かによって引き抜かれ道端に捨てられているところを発見されました。瀧乃湯が業者の経営となって三代目に当たる林佳慧さんによると、当時、浴場の経営を引き継いだばかりだった祖父が、北投渓のほとりの浴場入り口近くに捨てられていた石碑を見つけ、「良い材料を使っているから捨てるのはもったいない」と考えて持ち帰って庭に置き、今に至るそうです。林さんは「小さい頃は石碑の歴史的価値を知らず、ベンチ代わりにして腰掛けていた」と笑います。

日本が台湾を統治していたのは遠い昔となりましたが、この老舗浴場は今も変わらず当時の風情を残しています。林さんによると、近くで採れる「哄哩岸石」に、青湯（青磺泉）による侵食を防止するため硫黄のペーストを塗布して積み上げた瀧乃湯の浴槽は、女性が温泉を利用できず、男湯しか存在しなかった明治の開業当時そのままの姿をとどめているそうです。林さんの祖父が経営を引き継いだ際に女湯も開設されましたが、その際にも今では採取が禁じられている哄哩岸石を使用して昔ながらの素朴な浴槽が作られました。かつて北投では瀧乃湯、星乃湯（逸邨）、吟松閣が「三大名湯」と呼ばれましたが、現在も営業を続けるのは瀧乃湯のみとなっています。冷え込む季節に北投の温泉に浸かってゆっくりしてみてはいかがでしょうか。

・昔と今が行き交い溶け合う

中山北路「条通」と赤峰街 移ろいゆく人々の暮らし

文 ＿ 高穂坪
写真 ＿ 黄宇凡、劉徳媛、中央通訊社、聯合知識庫、台北市立文献館

過去と現在が交錯する台北の路地には、いくつもの時代を経て積み重ねられたさまざまな文化の足跡が残されています。かつて優雅な日本式宿舎が立ち並んだ中山北路の「条通」地区は、ネオンきらめく繁華街となりました。素朴な人情味あふれる赤峰街には昔ながらの中古の自動車部品を扱うお店と、新しい風を吹き込むさまざまなショップが共存しています。歴史あるこの街の路地では、語りつくせない物語と驚きをいつでも探すことができます。



1957 年、台北で最も近代的な通りであった中山北路。（写真／台北市立文献館提供）



1959 年の「条通」地区。過去の風景は失われましたが、かつてのにぎわいと日本の風情は今も残されています。（写真／中央通訊社、台北画刊 599 期）

中山北路の「条通」喧騒の中の閑静な高級住宅地

現在の中山北路 1 段から 3 段は、日本統治時代に皇室の人々や各国特使などが台湾神社へ参拝するために作られた「勅使街道」でした。広々とまっすぐ伸びた中山北路 1 段は今も台北市の重要な道路です。ただ、南京東路との交差点から路地へ入ると、せわしない中山北路とは異なる雰囲気を感じることができます。

現在「条通（〇条通り、〇には 1 から 10 までの数字が入る）」地区と呼ばれる中山北路より東、新生北路より西、南京東路より南、市民大道より北の一帯は台湾総督府（現在の総統府）、台北帝国大学（台湾大学）などに近かったため、大正時代に「大正町」として整備されて日本人官僚の宿舎が建てられました。当時の和式宿舎は 1 軒が 80 坪から 100 坪の広さのある庭つき木造戸建ての高級住宅で、いずれも要職に就く官僚が住んでいました。「談笑有鴻儒，往來無白丁（出入りするのは学のある者だけ）」と言われた瀟洒で豊かな住宅地だったのです。

第二次世界大戦後、日本人は台湾を離れることになり、一部の宿舎は台湾人に譲り渡されました。また住民が増加したため戸建ての宿舎は取り壊され、より多くの人が住むことのできるれんが造りの集合住宅が建てられま



日本統治時代、高級住宅地だった中山北路「条通」地区には今も当時の道路名が残っています。（写真／劉得媛）

1964 年の赤峰街。建物のほとんどが重層長屋建ての日本式宿舎と台湾式の戸建て住宅でした。（写真／聯合知識庫、台北画刊 599 期）



した。戦後の経済復興に伴って、中山北路にはチャイナドレスや舶来品を売る店などが軒を連ね、大手銀行も支店を置くようになります。好立地である「条通」地区は公務員や弁護士、医師が家を構えたがる最も人気のある場所でした。毎日黄昏時になると、夕食の準備のため練炭に火を起こした家々から立ち上る煙や、当時まだ排水路だった林森北路や天津街で魚を捕まえて喜ぶ子どもたちの声が、仕事が終わり温かい家へ帰る人々を出迎えたものでした。

台湾へやってきた蒋経国元総統の一家は 1969 年まで長安東路 18 号の公邸に住んでいましたが、その後、道路拡張のため取り壊すこととなり「七海寓所」と呼ばれた公邸へ引っ越しました。1966 年から「条通」地区に暮らす正得里の呉蘇秀霞里長は「ここは行政機関に近くて環境が良く、中山北路一帯の商業活性化にも一役買っている地区です。戦後、日本人が去ってからは台湾人が住むようになり、当時はみんなが生活のために必死で働き、質素に暮らしていました」と話します。



建成公園は今も近所の子どもたちが大好きな遊び場です。(写真／黄宇凡)

ネオンきらめく繁華街に

1980 年代前後、台湾と日本の貿易が非常に盛んで、中山北路 2 段から 3 段一帯には多くの日本の商社がオフィスを構えるようになります。「条通」地区では、政府の取り締まりが厳しくなった北投温泉から移ってきた飲み屋などが台湾人と日本人を相手に営業を続けていました。夜になって灯りがともり始める頃、このエリアは日本人に大人気の歓楽街へと変身しました。路地には日本料理店、カラオケ、スナックなどが立ち並び、三輪自転車が路地口で客を待ち、人々がひしめくにぎやかなその様子は、台湾経済の黄金期に鮮やかな色どりを添えました。

「みなさんは飲み屋が多い『条通』地区を治安に問題があるところだと誤解していますが、多くの店が地域の活動に喜んで参加してくれますし、近隣住人との関係も良好です。ここを訪れるお客さんも夜半には帰りますし、住民の生活に影響はありません」呉蘇秀霞里長はこう話してくれました。

本場の味に残る日本の風情

現在「条通」地区ではスナックやバーは少なくなり、かつてのきらびやかなにぎわいは影を潜めました。今はそれに代わってラーメン店、鰻料理店、居酒屋など多くの日本料理店がさまざまな本場の料理を台北の人々に提供しています。ここは食通が美味しい料理を求めて訪れるだけでなく、濃厚な日本の風情を今も残している場所なのです。

「条通」地区を散策して、静かで懐かしい日本情緒にひたり、本場の日本料理を楽しみ、台湾の多様な文化が生んだ新たな一面を感じてみてはいかがでしょうか。まるでこの百年の時間がすぐそばをゆったりと流れていて、手を伸ばせば触れることができるかのようです。

赤峰街
人々の苦労が生んだ繁栄

中山北路の「条通」地区からほど近くにある赤峰街は日本統治時代、行政機関から近かったため日本の下級公務員が数多くここで暮らしていました。また大稲埕や延平北路にも近かったことから、台湾の労働者階級の人々も少なくありませんでした。そのためこの通りには重層長屋建ての日本式宿舎と台湾式の戸建て住宅が多く、その間に裕福な台湾商人が建てた二階建ての洋館がいくつか見られます。

現在の赤峰街と承徳路 2 段の間にある建成公園には、かつて台湾最初の児童遊園地があり、近所の子どもたちに大人気の遊び場でした。南京西路と赤峰街の交差点に作られた飴工場か

ら漂う甘い香りは、子どもたちの歓声とともに過酷な環境での生活の苦しさを和らげました。

日本人が去った後、赤峰街の日本式宿舎には台湾人が住むようになります。また生活のために地方から多くの労働者が集まり、生活空間が混み合うようになりました。幼少期を赤峰街で過ごした台湾大学哲学科の李日章教授は、当時をこう振り返ります。当時、1 棟の狭くて長いれんが造りの台湾式戸建て住宅に一番多い時で 8 世帯が住んでいたそうです。その中には学生、教師、公務員、鍛冶屋の労働者から中山北路付近のスナックで働く女性までいました。小さな町の一角で、さまざまな人生ドラマが繰り広げられていたのです。

また近くの南京西路、延平北路では戦後の経済復興に伴って、第一劇場や大中華戯院などの施設が次々とでき、さまざまな商店や屋台が赤峰街の賑やかな生活を形作りました。

「鍛冶屋街」でなく「くず鉄街」

70 年から 80 年前、承徳路はまだアスファルトで舗装されていない土の道で、道路の両脇には鍛冶屋が数多くあったため「打鉄仔街（鍛冶屋街）」と呼ばれていました。隣の赤峰街は中古の自動車部品を売る店が多く、「鍛冶屋街」と隣合っていることから「歹鉄仔街（くず鉄街）」という名前がつきました。李教授によれば、1970 年代に政府が承徳路の拡張工事を行った際、一部の鍛冶屋が赤峰街へ移転したため、昔から名の知られた「鍛冶屋街」は赤峰街のことだと誤解している人もいるのだそうです。

「『くず鉄街』の店は欧米や日本から輸入した中古の自動車部品を修理して整備工場へ販売しています。また直接赤峰街へ来て部品を探す自動車オーナーも多いんですよ」。1981 年からここで元大汽車材料店を経営する陳さんはこ



赤峰街は中古の自動車部品を売る店が集まり「くず鉄街」とも呼ばれています。（写真／黄宇凡）



台湾大学哲学科の李日章教授は幼少期を赤峰街で過ごしました。（写真／黄宇凡）





カフェやおしゃれなショップなどが集まるようになった赤峰街では、懐かしさと新しさが融合した独特の活気が生まれています。（写真／黄宇凡）

う語ります。「景気が一番良かった頃、どの店も毎日大繁盛していました。今の売上はその時の 6 割くらいになってしまいましたが、どの店もプロの技術で部品を扱うというこだわりを持っています。台湾の工業発展を影で支えるなくてはならない存在です」。

新しいショップがもたらす活気

近年、赤峰街の閑静な雰囲気に、多くの飲食店や服飾、雑貨販売など特色ある店が引き寄せられ、このエリアに新しい風を吹き込んでいます。

赤峰街 41 巷でカフェを経営する頼さんは店をオープンした当初、雑貨屋などは今ほど多くなかったと言います。路地には懐かしい雰囲気があふれていて機械部品を扱う店が数多くあり、独特の魅力を放っていたそうです。古着店のオーナーである詹さんは元々内湖にお店を持っていましたが、赤峰街のゆったりと過ごしやすいな雰囲気に魅せられたことに加えて、客層の近い店が集まる経済効果にもひかれて移転することにしました。今は赤峰街でセンスと創意を発揮し、実用性と質感を兼ね備えた商品を販売しています。部品を売る年配の人々と若いオーナーたちが互いに打ち解け、このエリアに新たなにぎわいを生み出していくことでしょう。

日本統治時代の建物から「くず鉄街」に響くトントンカンカンと鉄を叩く音、カラフルなカフェやおしゃれなショップ、四方に広がる濃厚なコーヒーと素朴で知的な文化の香り…赤峰街では新旧の産業がぶつかり合い、融合し、独特の雰囲気が形作られ、今や台北でも見逃せない宝探しの場所となっています。


（写真／施純泰）

歩く、考える、書く

野嶋剛さん流・台北の味わい方

文＿江欣盈　　**写真**＿施純泰、野嶋剛

台北は小さく、一日でいろんなことができます。

冬の朝、事務所から潮州街の豆乳店「新鮮豆漿店」まで歩いて行くと、店頭には熱気が立ち込めています。アツアツの焼餅（中華風焼きパン）をお供に温かい豆乳をゴクリ。やさしく、しかし身心がシャキッとします。それから調べ物をしに中山南路の国家図書館へ。古亭から中正記念堂まではバス、MRT（都市交通システム）、タクシーのいずれを使っても 20 分も掛かりません。お昼は西門町。慣れ親しんだ街並みとお気に入りのブランドが楽しい買い物の必須条件です。ランチは排骨飯（パイコー飯）の「金満園排骨」と決めています。ちょっとした食事も旅の思い出のひとつ。午後、冬の台北で貴重な晴れ間を逃さず、YouBike（公共自転車シェアリング）に乗って臨沂街の映画をテーマにした

カフェへ。その後どうするかをゆっくり考えます。こんな風に過ぎていく野嶋さんの休日、実は台北っ子の休日そのものです。

「今日はいいお天気ですね！」ジャーナリストの野嶋さんが YouBike に乗って現れ、気楽な雰囲気で天気について話し始めます。こういう出だしも十二分に台北らしいものです。野嶋さんと台北の関わりは 1990 年から数えてもう 28 年目になりました。新聞学科の大学生だったころ交換留学生として台湾にやって来て、昼は国立台湾師範大学で中国語を学び、夜は企業で日本語を教えました。見知らぬ言葉、新しい友達、広がり続ける台北の街。短い留学生活でしたが、一日の終わりの塩酥鶏（台湾風唐揚げ）と台湾ビール、そして十色の球が置かれたビリヤード台、これが大のお気に入りになりました。

台北に向き合い、台北を味わう

大学を卒業した野嶋さんは朝日新聞に入社、2016 年まで 25 年近く勤めました。戦場の前線では記者として、アフガニスタンやイラクについてペンとカメラで記録。特派員としてシンガポールと台北にも駐在し、複雑に入り組んでいるように見える中華圏の政治文化を得意分野としています。現地からの報道は機動性と文章力のどちらも必要とされる仕事です。日本のやや保守的な報道業界のあり方に比べ、台湾のオープンでフレンドリーな取材環境は、広く深い視野から切り込むことのできる、報道の自由をより多く与えてくれました。つまり、野嶋さんの台湾に対する独自の見解は、国際政治や歴史を理解しているだけでなく、台湾という現場での社会観察によるものなのです。

新鮮豆漿店


（写真／野嶋剛）

60 年以上の歴史を持つ豆漿（豆乳）店。豆乳のほか、焼餅、マントウ、蛋餅（中華風卵クレープ）、大根もちなど定番の中華風朝ごはんが食べられる。質素だが忘れ難い味わいで、地元の人だけでなく海外からの旅行者にも人気。

大安区潮州街 35 号（MRT 古亭駅 6 番出口）

05:30~12:30

金満園排骨


（写真／野嶋剛）

西門町に店を構えて 45 年、看板メニューの排骨飯（パイコー飯）には、付け合わせのおかず 3 品に加え、スープ、揚げたパイコー（骨付きバラ肉）とキュウリの漬物。ほどよく揚がった肉はジューシーでうまみたっぷり、黒コショウの香りが味を引き立て、シンプルな組み合わせながら印象深い味わい。

万華区武昌街 2 段 82 巷 3 弄 1 号（MRT 西門駅 6 番出口）

11:00~21:00（水曜定休）


（写真／野嶋剛）

「台北は台湾をのぞき見るための窓です。台北の姿は海外からの渡航者にとって台湾の第一印象をほぼ決めるでしょう」。しかし野嶋さんは、台北101ビルや大稲埕、艋舺といった代表的な観光地より、華山1914文化創意産業園区と松山文創園区のほうが好きだと言います。台北オリジナル文化発信の基地として、台湾の若者のイノベーションや野心を感じられるだけでなく、多元的なものを許容しエスニシティが混ざり合う台湾の核となる価値観を体感できるからです。

食についてはいたずらっぽく「台湾は安いものほどおいしい」と語ります。野嶋さんは、台湾では庶民の食べ物こそ最も海外の観光客を引き付けるもので、お馴染みの牛肉麺、ショウロンポウ、夜市（屋台）料理のあれこれに加え、客家料理もとても台湾らしい味わいだと考えています。米の香り広がる粄條（米粉で練った麺）や定番の客家小炒（客家の炒め物）などいずれもビールにぴったり、甘辛く香り高い料理は日本人の口にも合うし、台北、苗栗、新竹、高雄のどこでも地元ならではの味わいが楽しめます。あるいは台湾の美食探検の第一歩として、西部の海岸沿いの台湾料理や、東部の山あいの先住民の料理を試してみるのもいいでしょう。

銀輪と大地、考えることとものを書くこと

いまやらないと、一生できないことがある
——台湾映画『練習曲』より

この映画に影響を受け、野嶋さんは2017年10月に人生初の自転車による台湾一周を成し遂げました。同行者20数人とともに台中からスタート、8泊9日で交通部が整備した自転車専用国道「環島1号線」を逆時計回りに走りました。

屏東の南廻公路や台東の長浜区間は絶景です。そして車城郷から寿峠までの 20 キロメートル区間は海抜 460 メートルまでを駆け上がる道のりで、海からの強い横風を受けるため自転車にとっては極めて苦しいデスロードですが、「行く価値はあります。行くと誰もがまた来たくなるところです」と野嶋さん。台湾一周の手段として自転車に乗るのは奥深く大きな意義があると言います。自転車の手軽さと速さは一歩踏み込んで探索するのに向いているし、一周することでそれぞれの地が持つ姿をすべて視野に収めて異なる風土や人情を感じられるため、台湾観光の新たな目玉にできると考えています。

野嶋さんは執筆のために思索するとき、いつも日常の観察から始めます。台湾映画は自分にとってある視野の焦点であり、1 本の映画にはその世代の共通の思い出が流れ、画面の隅々に社会問題が隠されていると言います。野嶋さんの文章は、歴史、政治、文化、芸術、暮らしの枠組みを越えてその時代の人と物を仔細に分析し、精確で鋭い洞察をみせながら、落ち着きがあり抑制のきいた筆致で綴られます。「ものを書くというのは自分をさらけ出すようなもので、大勢の前で踊るのにも似ています。書くということは社会との対話を求めるものだから、個人的な感情を出すのは控え、抑えることではじめて美しい文章が生まれます」。

朝日新聞を離れ、フリーとして書籍やコラムを執筆したり、講演をしたり、これまでより多くの時間を日本や台湾であちこちの街角を歩くのに費やしています。「物書きに専念すると決めたのは正しかったと思います」という野嶋さんの書くものに、台北の 1 ページは欠かせなくなっています。旅するのであれ書くのであれ、街と向き合うのは同じ、旅人が一瞬の風景をシャッターで切り取るのならば、もの書きは文字で自分の座標を定める――野嶋さんはペンで原点を描き、都市の周辺を測り出すのです。

野嶋剛
作家／ジャーナリスト



朝日新聞で東京本社政治部などに勤務。2016 年からフリーに。著書に『謎の名画・清明上河図　北京故宮の至宝、その真実』、『銀輪の巨人』、『台湾とは何か』（以上、繁体字中国語版あり）、『日本人黙黙在想的事：野島剛由小見真的文化観察』（台湾で出版、繁体字中国語版のみ）など多数。台湾と日本のさまざまなメディアでコラムなどを担当している。

ウェブサイト



地球の多様な文化の探検家

セントクリストファー・ネーヴィス駐台大使ジャスミン・ハギンズさん

文 _ Rick Charette　**写真** _ 楊佳穎、Shutterstock.com

さてここで問題です。世界地図の前に座って 5 秒以内にセントクリストファー・ネーヴィスがどこにあるか指差してください。当てられたらあなたは高校時代、地理の先生のお気に入りだったに違いありません。

この人口 5 万人の小さな島を故郷とするジャスミン・ハギンズさんには朝飯前。ハギンズさんはとても小さな国からやってきた、一風変わったスケールの大きい人生を過ごしている人物です。ひたむきな仕事ぶりといくつもの素敵な巡り合わせが何年にもわたってハギンズさんの人生に多くの変化をもたらし、遥かな土地と土地を結ぶ長い物語をつむいできました。故郷を離れ、長く暮らしたニューヨークからワシントン D.C. へ、そして今、その物語は台北で書き継がれ、舞台は大西洋から太平洋の世界に移っています。

人口 1 万 3,000 人余りの首都・バセテール出身のジャスミン・ハギンズさんは、今では「ジャスミン・エリーズ・ハギンズ、セントクリストファー・ネーヴィス駐中華民国（台湾）大使閣下」と呼ばれます。謙虚な気質の島国で育ったハギンズさんは今回のインタビューに際し、かしこまった「閣下」という敬称を使うのは一度だけならと了承してくれました。注意深い読者の皆さんはすでに二度使われていることにお気づきですね。どうぞお許しを、大使。



台北に来るまでの道のり

「生まれてから数年はバセテールに住んでいましたが、故郷はもっと小さな、セントキッツ島の北海岸にある祖父母の村だと思っています。とても小さい頃、家族とニューヨークのニューロシェルへ引っ越しました。それからブルックリン、ニュージャージーへと移り住み、進学のためにワシントンで過ごすようになりました。そこで思いがけず外交の世界へ足を踏み入れる機会を得ました。その後10年間はワシントンにある自国の大使館で働き、2008年に台湾での大使館開設のため赴任を引き受けて以来、台北で暮らしています」。

ハギンズさんの任務とは

「大使館の任務は非常にシンプルです。まず私たちは台湾に暮らす自国の国民の利益を保護するために働いています。多くは奨学金プログラムでやってきた学生です。より広い意味では、とくに貿易と観光の分野において台湾とセントキッツ・ネーヴィスのつながりをより強くする役割を担っています。観光業はわが国の経済にとって重要な産業です。台湾での一番の目標は台湾の皆さんに私たちのユニークな文化を知ってもらい、わが国を訪れてもらうきっかけを作ることです」。

台北の過去と現在

ハギンズさんは大使に任命される前に一度、台湾を訪れ短期間滞在したことがあります。「他の初めてやってきた人たちと同じように、バイクの数、この街の忙しさ、そして人々がお互いこんなに近い距離で暮らしていることに驚きました。しかし同時にこのような環境でありながらも、誰もが感じが良く、気さくで親しみやすく、秩序がありました。もちろん今もそうです。台北は地域によって雰囲気が違いますね」。

「この街で暮らす間に目にしてきた最大の変化は、人々がより洗練され、国際的になってきたことです。ここには他の民族や文化に対する深い理解があって、台北や台湾の人々はとても受容的です。さまざまな文化の要素を見つける



（写真／Shutterstock.com）

セントクリストファー・ネーヴィスとは

セントクリストファー（セントキッツ）・ネーヴィスはカリブ海の西インド諸島に属する島嶼国で、西半球で最も面積が小さく人口が少ない独立国です。わずか2キロメートルの範囲に隣り合う大小の島から成り、大きい方のセントキッツ島に首都のバセテールがあります。「キッツ」は現地で使われる「クリストファー」の愛称です。このため同国は「セントキッツ・ネーヴィス」とも「セントクリストファー・ネーヴィス」とも呼ばれますが、前者のほうが一般的です。中華民国（台湾）との国交はイギリスから完全独立を果たしたその1983年に結ばれました。

ことができますし、人々は魅力的だと思ったものは生活の中に進んで取り入れます。これは受容性の高い地域社会と台湾に暮らす外国人の社会が、公式、非公式の形いずれにおいても心地良く融合しているためだと思います。公式な形でいうとフードフェアやカルチャーイベントなどです」。また、海外旅行を楽しむ台湾人が着実に増えていることもこの変化を生んだ理由のひとつかもしれないとハギンスさんは言います。

「例を挙げると、台湾で初めて迎えたクリスマスは大変でした。それまで家族や友達もなしに、伝統的なお祝いもせずにこの季節を過ごしたことはありませんでした。地元ではクリスマスシーズンになるとあちこちでライトがきらきらして、誰でも参加できるパーティーが催されたりしますが、それがここにはありませんでした。しかし今では何もかもが変わりました。どこもあふれんばかりにライトが輝き、みんながクリスマスを誰かと楽しむ方法を求めています。これこそ私にとってのクリスマスです。台湾はキリスト教の国ではありませんので、宗教的な意味合いはありません。しかしうきうきした気分や人生の贈り物である幸せとお祭り騒ぎを分かち合う感覚、これらはたしかにあります。私たち外交使節は、クリスマスツリーの点灯式などに毎年招待されるのですが、私はそれを心待ちにしているんですよ」。

大使館のさまざまな取り組み

「私たちはさまざまな方法で、台湾の皆さんにセントキッツ・ネーヴィスへの理解を深めてもらい、わが国にとって特に重要な観光業をPRする役割を担っています。『2018台北ランタンフェスティバル』への参加は、とても楽しみにしていました。台北市のオファーに応じて、わが国の主要な観光地のひとつである『ブリムストーン・ヒル要塞国立公園』（世界遺産）を題材にした素晴らしいランタンを詳細な紹介と合わせて国際ランタンエリアに展示しました」。

「このほか『台北国際旅展（台北トラベルフェア）』に毎年参加したり、二階建て観光バスなど台北の路線バスでのPR、また『ラテンアメリカ・カリブ海カルチャーフェスティバル』では台湾で学ぶわが国の留学生たちによるダンスや音楽のステージがイベントのハイライトでした。いま、楽しみにしているのはスティールパンバンドの台湾公演で、めったにないものですから大きな注目を集めると思います。今年の秋開催を目指して準備中です」。

休日の過ごし方

「何より楽しみなのはハイキングです。台北はとても魅力的で、山が多くさまざまなレベルの登山道が発達しています。友達と出かけられる



セントキッツ・ネーヴィスの首都、バセテールの風景。
（写真／Shutterstock.com）

時はいつも山へ登り、新しい登山道や歩き慣れたルートを再び探検したりします。気に入っているのは陽明山国家公園の登山道で、七星山はとりわけいろいろなコースがあるんです」。この公園は、台北盆地と北に広がる海の間にある陽明山の中央山塊の頂上まで広がっています。

「台湾の食べ物も大好きです。中華料理は食べ切れないほどバラエティに富んでいますね。一番好きなのは台湾に来るまで聞いたことのなかった、あるいは食べられるとは思っていなかった食材を使ったシンプルな料理です。最も良い例はニンニク少々を加えたサツマイモの葉の炒めものです」。

「台湾の先住民料理に特別な思いを抱くのは、セントキッツ・ネーヴィスで食べられる盛り沢山のごちそうに似ているからかもしれません。あまり知っている人いませんが、台北市街地には先住民のオーナーが開いた素晴らしい先住民料理の店がいくつかあります。たくさんの料理がありますが、私は竹筒飯（竹筒につめて炊いた炊き込みご飯）や焼きイノシシがお気に入りです」。

台北／台湾の旅にあればいいもの

「アドバイスすることがあるなら、公共の場にもっと英語表記の情報があったほうがよいと思います。英語が公用語ではないことは分かりますが、増え続けている外国人観光客の多くが少しは英語を理解します。私のように台湾に10年住んでいて自分で動き回れる人間にとっても、英語表記が増えることは便利ですので大歓迎です。もちろん私も中国語をもっと懸命に勉強しなければなりませんが」。

「別の面では、地域の国際化の取り組みにおいて外交団がより組織的に人々と接することができるようになると好ましいと思います。例えば学校や地域のイベントで、きちんとしたプレゼンテーションとパフォーマンスを通じてわが国の各地域と文化を紹介することができます。台湾の皆さんはこのようなイベントを歓迎してくれると思いますし、それが礎となって長期にわたる素晴らしい成果が生まれると信じています」。





西インド諸島に位置するセントクリストファー・ネーヴィスは、西半球で最も小さい国家です。（写真／楊佳穎）



蔡珠児さんは友達と食卓を囲みながらあれこれ語るのが大好きで、幸せなコミュニケーションのひとときを楽しんでいます。(写真／梁忠賢)

食卓に幸せの温もり

蔡珠児さんのおもてなし家庭料理

文 ＿ 楊美娟　　**写真** ＿ 梁忠賢

蔡珠児さんが手掛ける「家宴（おもてなしのごちそう）」は、友達の間で話題になるほど手が込んでいます。蔡さんはこれを盛大な行事と考え、数週間前から計画を立てて綿密に準備を進めます。農作物の収穫時期に注意しながらメニューを決めたり、思わぬ場所で材料を仕入れたりもします。休日に台北市の猫空地区の山へハイキングに行った際、道中で美しい緑の笹の葉を見掛けたら地元の住民から数枚分けてもらい、家で洗っておもてなし料理を引き立てる飾りに使います。ある食材を確保するために複数の伝統市場をこまめに回ることもありますが、蔡さんにとっては段取りの基本にすぎません。

「食事会のたびに伝統市場を2、3カ所回っていますが、最低限必要なことと思います。特定のお店で買うと決めている食材もあって、どうにか満足できる食材を揃えます」。とても面倒に思えますが、自分は慣れっこだと蔡さんは笑

いながら語ります。「じっくり食事を味わうことは大切ですし、私にとって Quality Time（貴重なひととき）でもあります」。このような心掛けに忠実に、食材によって塩や油を使い分けるなど、相当なこだわりです。

今回のインタビューの前日、蔡さんは市場で真冬にしか出回らないエシャロットを見つけ、嬉しさのあまりたくさん買いました。数種類の油を使って試しに料理してみたところ、ガチョウ油が一番エシャロットの香りと甘み、柔らかさを引き出せることがわかりました。これに基隆市の東北角沿海で捕れた、殻をむきワタを取ったスベスベエビを盛り付けます。きれいな緑色のエシャロットの葉と桜色のスベスベエビが互いを引き立て、濃厚ながらさわやかな香りが立ち込め、嬉しくなってしまいます。

「野菜の特徴に合わせてタレを変えてみると、さまざまな味わいを出せます」。蔡さんはお皿に盛り付けながら語ります。

地元の旬の豊かな味わい

蔡さんは香港に長年住んでいたため、台湾に戻ってきてからここ 2～3 年間、台湾は香港と違って食材が豊富で素晴らしいと強く感じ、腕が試されているようだと話します。

「香港は食材の 9 割を輸入していて、季節を問わず世界各地からのさまざまな食材を年中目にすることができますが、種類は豊富でなく、香りもありません。台湾では 2 世紀にわたって品種の導入、改良を行ってきたため食材の種類が豊富で素晴らしいです」。蔡さんは話しながら濃い緑色の野菜の乗ったお皿を並べます。見た目はアスパラガスかシダレイトスギの葉っぱのようですが、食べてみるとシャキシャキとした食感で、潮風のようなしょっぱさが感じられます。「これは台湾中部の沿海で採れたシーアスパラガスです。もともとしょっぱい味がしますから、差し色として新鮮なユリ根を加えれば十分です」。

新鮮なエシャロットの葉をガチョウ油で炒め、スベスベエビを添えた料理からは素敵な香りが漂ってきます。（写真／梁忠賢）







料理の準備はどんな細かい作業も全て蔡さんが一人で行っています。（写真／梁忠賢）

食材の話になると、田畑を耕したこともある蔡さんの表情はパッと明るくなります。今一心に作っているタロイモ入り汁ビーフンは、前日から下ごしらえが必要です。エシャロット、シイタケ、干した小エビ、カレイなどを細かく切ってからさっと油通しし、ニンジン、澎湖タコ、千切りの肉、モヤシなどを用意します。台湾料理のほとんどは良い具材をぜいたくに使い、色や味にもこだわります。「今はタロイモがおいしい季節です。ビーフンを食べたときにタロイモの食感も感じられるよう、油で揚げたタロイモと揚げていないタロイモの両方を鍋に入れます。もう少しすればボラ入りビーフンの季節ですね」。蔡さんはてきぱきと準備を進めながら語ります。

アツアツの汁ビーフンがテーブルに運ばれました。料理の温度にこだわる蔡さんが「熱いうちにどうぞ」と声を掛けます。

「テーブルに乗った瞬間こそ最適の温度と最高の味わいを堪能できるときです。人生も同じで、今この瞬間を味わうべきです」。どの料理も熱いうちに口に運んでもらいたい蔡さんは、来客者のために汁ビーフンをよそいながら語ります。

蔡さんは来客者の年齢や職業にも配慮し、丹念においしい料理を作っています。例えば、食べ盛りの若い男性が来る場合はまず、お腹にたまる「馬告（クベバ＝ヒッチョウカの実）を加えた塩麹漬け豚あご肉とバターレタス」をふるまいます。塩麹に漬け込むことで豚あご肉の香りと味わい、肉質の良さを引き出すことができ、バターレタスはちょうど良いあっさり感を生み出します。また、「姫マツタケ」とも呼ばれるアガリクス茸は今が旬で、こめ油で軽く炒めて香りを出し、赤パプリカを少し添えて彩りにします。テーブルに出されると部屋中に芳ばしい香りが広がり、驚きの声が上がります。

大切な人に作る一品

友達を家でもてなす場合、蔡さんは前もって友達に料理の好みを尋ねます。それに夫のために必ず前菜の「六福焼き麸」を用意します。これはシイタケ、焼き麸、冬タケノコ、ワスレグサ、キクラゲ、そして夫の実家で必ず使うゆで落花生を砂糖、スターアニス（八角）、醤油を加えてとろ火で味を行き渡らせ、炒め煮したものです。きめ細かい、何層にも奥深い味わいとなり、まるで家庭の温かみのようにほんのりとした上品さと豊かさが感じられます。蔡さんの家庭の食卓で最も多く出される一品でもあります。料理が次々とテーブルに運ばれてくるとだんだん和やかな雰囲気になり、お互いに箸で料理を取り分けながら会話が盛り上がり、時おり笑い声も上がります。蔡さんの食卓からは料理の温かさだけでなく、心の温もり、幸せの温もりも感じられます。

タロイモ入り汁ビーフンは厳選した旬のタロイモを使い、ビーフンと絶妙な食感を生み出しています。（写真／梁忠賢）





「六福焼き麸」は蔡さんの家庭で一番よく出てくる料理です。（写真／梁忠賢）



蔡さんは家庭を育む気持ちさながらのきめ細やかさで一つ一つの料理の味にこだわります。（写真／梁忠賢）

地元食材を生かす極上の饗宴

食材本来の味を追求する料理人 陳之穎さん

文＿黄星若　　**写真**＿陳弘岱



陳さんは旬の食材を使用して、食材本来の色と味を引き出すことにこだわっています。（写真／陳弘岱）

「レシピは一切信じていません。信じているのは自分の舌だけです」。北投老爺酒店（ホテルロイヤル北投）の館内にあるフレンチレストラン「PURE cuisine 純・欧法料理餐庁」の料理長で、自然の食を一番のポリシーとする陳之穎さんは語ります。非常に鋭い味覚を持つ陳さんは、新鮮な天然の食材と優れたオリジナリティーを生かした料理で、食材が本来持つ絶妙の味わいを引き出しています。陳さんの料理を食べた食通たちは「おいしさと健康は両立できる」と信じられるようになると言います。

陳さんは高級職業学校で電子工学を専攻し、趣味はデザインでした。しかし、大学時代にアルバイトしていたステーキハウスで、卒業後に試しにとホールスタッフから始め、その後、厨房で調理の仕事に就きました。料理人たちから知識とテクニックを教わる中で料理に対する興味を持ち、プロの料理人になることを決意しました。大手のホテルで働き始めてからは食材に対する理解と視野を広げ、その後フランスに留学して本場のフランス料理をマスターしました。料理の腕にさらに磨きをかけ、独自の調理法を確立した陳さんは料理の世界で活躍するようになります。

健康とおいしさを両立

陳さんは料理の世界に入ってから間もなく、健康とおいしさのバランスを追求するようになりました。最初のころは牛肉を漬けこんだり香料を加えたりしないという理念を受け入れないお客さんもいましたが、ここ数年間、食の安全を脅かす事件が相次いだことで、陳さんのこだわりが正しいことが次第に認められるようになりました。

「健康とおいしさを両立させる方法はあります」。ヘルシーなものはおいしくないと思い込んでいる人は多いですが、陳さんの考えは違います。食材選び、包丁の技、調理法によって口当たりと風味を良くすることができるため、添加物で味を整える必要はないと考えています。

だからこそ、陳さんは食材選びにとても気を配っています。野菜は陽明山の小規模農家が農薬や化学肥料を極力抑えて栽培したものを使っています。こうした野菜は普通より小ぶりですが、風味が抜群です。また、魚は肉質がしっかりしてみずみずしいうまみのある天然魚にこだわっています。陳さんは食材選びで種類にこだわらず、今採れる食材で料理を作ります。旬の食材こそ最高の素材であり、季節に応じた料理によって食材の良さを引き出せると信じているのです。

鮮度へのこだわり

陳さんは食材選びだけでなく、食材の鮮度を保つことにもこだわっています。魚の場合は水揚げ直後から輸送中、ワゴンに載せている間まで氷を敷き、魚の骨を取る作業も氷の上で行います。体温などで鮮度が落ちないようにし、魚を最も新鮮な状態で維持するためです。

陳さんは皿の周りの盛り付けに時間をかけるよりも、皿の温度を一定に保った方が料理を最高の状態でお客さんに提供できると考えています。こうした昔かたぎの考え方も陳さんの料理に対するこだわりと言えるでしょう。

偶然の成り行きから始まった料理人としてのキャリアですが、陳さんの人生の中で素晴らしくまた大切な物語を紡いでいます。陳さんは心を込めて料理を作り続けることで、自然な食の概念と、食材と健康の大切さをより多くの人に理解してもらえると信じています。





陳さんは食材本来の味を残した料理をひとつひとつ丁寧に作っています。（左から蒸し天然魚、アヒル胸肉のソテー・スパイスチーズ添え、キャラメル風味のダックワーズ）（写真／陳弘岱）

台湾人の理想の朝ごはん
台湾風お粥食べ比べ

文 ＿ 焦桐　　**写真** ＿ 楊智仁



葉記肉粥のお粥は見た目は素朴ですが、味付けが絶妙です。（写真／楊智仁）

大稲埕にある「葉記肉粥」。ここの肉粥は生米から煮上げる「中華粥」でなく、台北のほとんどのお粥店と同じように「湯泡飯」（雑炊）に分類されます。味付けが絶妙で、最も素朴なお粥と言えるでしょう。定番の具材である刻みネギやパクチーは使いません。色合いは薄い褐色で、醤油を加えているのが分かります。具材は千切り大根、とろみスープで煮込んだ肉のつみれ、刻みセロリ、サクラエビがトッピングされています。肉のつみれが3切れも入っているということは、安いからといって手抜きしていない証拠です。スープは骨と大根を煮込んで取ったと分かるダシにシイタケ、油で揚げたエシャロットの風味が漂い、ホッとする味わいです。私はこの店に来たら肉粥の他に、紅糟肉（紅麹に漬けた豚肉）や、カキ、エビ、豆腐や、紅糟アナゴを揚げたものも食べています。豚レバーのフライは見た目こそ良くありませんが、とても柔らかく口当たりなめらかです。紅糟肉のフライもとてもおいしく、大根漬けのスライスが添えられています。

北部と南部でこんなに違う台湾風お粥

台湾のお粥は北部と南部で全く異なります。一般的に北部では豚骨、南部では魚の骨でダシを取っています。北部では豚肉をトッピングした肉粥が中心で、おかずに紅糟肉、エビ、カキ、豆腐を揚げたものを売る店が多いです。南部では魚をトッピングした魚粥が中心で、油條（中華風揚げパン）と一緒に食べることが多いです。また、カキは北部でも南部でもよくおかずとして親しまれています。

万華は西昌街にある「老艋舺鹹粥店」は開業して60年以上。この店のお粥は醤油を加えていないため白っぽく、あっさりした感じです。具材には紅糟肉2切れに、油で揚げたエシャロット、豆皮(湯葉)、小白菜（チンゲン菜の一種)、刻みネギのほか、タケノコの千切りがトッピングされることもあり、色合いがきれいです。おかずのうまみたっぷりのカキや厚揚げ、豚皮、紅糟肉のフライもとてもおいしく、特に紅糟肉のフライは色鮮やかで食感は柔らかく、「葉記肉粥」や万華の広州街にある「周記肉粥店」のサクッとした食感のものとは違います。「老艋舺鹹粥店」で紅糟肉のフライを注文すると、お店の人は親切に「脂身が多いのと少ないのとどっちがいい？」と聞いてくれます。

葉記肉粥

大同区保安街47巷32号向かい

0916-836-699

老艋舺鹹粥店

万華区西昌街117号

(02)2361-2257

周記肉粥店

万華区広州街104号

(02)2302-5588

老艋舺鹹粥店のお粥はあっさりした味で、具材が豊富です。（写真／楊智仁）





葉記肉粥の紅麹に漬けた豚肉のフライ。付け合わせのシャキシャキ食感の大根漬けの薄切りも肉粥とよく合います。（写真／楊智仁）

50 年以上商いを続けている「周記肉粥店」のお粥はやや小ぶりで、濃い褐色です。具材にはとろみスープで煮込んだ肉のつみれ 1 個、油で揚げたエシャロット、サクラエビ、ちぎった厚揚げがトッピングされています。この店はこのあたりで一番人気があり、茹でイカ、脂肪の多い豚レバー、豚のホホ肉などメニュー豊富ですが、お粥の味は「葉記肉粥」や「老艋舺鹹粥店」の方がややおいしいと思います。

台湾風のお粥は理想的な朝ごはんで、台湾人が確立した独自の料理としてうまく世界に発信すべきです。また、延平北路 4 段と酒泉街の交差点東南側にある「鹹粥」もおすすめです。

本編は台北市観光伝播局が出版した『味道台北旧城区』（台北下町の味）からの抜粋です。美食を訪ね、美食を追求して 10 年以上になる作家・焦桐さんが艋舺、大稲埕、大龍峒などのお店を半年近くかけてめぐり、167 店を厳選しました。旅人を台北の昔懐かしい味の探索へと誘います。

『味道台北旧城区』（台北下町の味）

焦桐著／定価 250 台湾元／台湾全土の大手書店でお買い求めください



ミュージシャンの感性で伝統に新風

心機一転・幸せ伝えるランタンフェス 蘇打緑・阿福さん

文＿林秀涵　　**写真**＿劉徳媛、高讃賢

人気ロックバンド、蘇打緑（ソーダグリーン）が3年間の活動休止を宣言しましたが、バンドリーダーの阿福（アフー）さんは相変わらず夢を追い続けています。さまざまなイベントに取り組んでいるほか、このほど2018年の台北ランタンフェスティバルのアートディレクターを担いました。今年、阿福さんの手掛けるランタンフェスは、これまでのお決まりの流れを一新し、この大地に想いを抱くアーティストたちとともに、人情味、アート、幸せがあふれるイベントとして行われました。



阿福さんは台北ランタンフェスにアーティストを結集させ、ともに幸せな視覚の饗宴を繰り広げました。（写真／劉徳媛）

Q1 ミュージシャンから台北ランタンフェスのディレクターへ、二つの役割はどうつながりましたか。

いまは音楽をやっていますが、大学では行政学を専攻していました。だから社会問題には高い関心を持っています。ミュージシャンにはたくさんのファンがいて、一定の影響力を持っていますから、これを生かして今の社会を変えたいと思っています。ランタンフェスの企画を通じて、音楽の分野とは違うものをひねり出そうと試みました。世界で活躍する台湾のアーティストをこの大地に結集させる、これが今回いちばんやりたかったことです。

Q2 台北ランタンフェスに関わるきっかけと動機は。

兵役でさまざまな分野のパフォーマンスアーティストと知り合ったころから、枠組みを越えたコラボレーションというアイディアを温めていました。台北には素晴らしいモノやコトがたくさんあるけれど、今の子供は家でテレビを見たり

スマホをいじったりすることが多いと思います。そこで2016年から2年連続で「URS27華山大草原」という広場に「達斯克巨人楽園（期間限定の屋外遊園地）」を開設しています。「都市美術館」のような、アートと音楽を組み合わせたインタラクティブな施設で、子供たちを外に引っ張り出すのが狙いです。施設内の巨人は巨大ランタンの要領で制作したので、ちょうどこの企画を手掛けた経験をランタンフェスに活かそうと思いました。また、枠組みを越えた若いアーティストが自分の得意分野を生かし伝統行事の美をどう解釈したのかをみなさんに見てもらおうと頑張りました。

Q3 台北ランタンフェスをより見応えのあるものにするため、音楽の仕事で培った経験のうち活用したものは。

ミュージシャンにとって大事なのは、何をするにも「ビジュアル」と「ストーリー」を添えることです。この考えをランタンフェスにも導入し、どのランタンも単なる犬とか動物とかいうことでなく、ストーリーを添えるよう取り組みました。見る人がその背後にある精神と物語を感じられるようにし、フェス全体がより見応えあるものになりました。

Q4 フェスのディレクターとして最も大きな課題とは。型破りなポイントと特色は。

去年のフェスも非常にうまくいったのでプレッシャーも大きかったです。でも「今年は心機一転！」という信念を持ち、メインランタンの大きさや経費の多さにとらわれませんでした。誰もが表面だけを見て通り過ぎるのではなく、一つひとつのランタンの前で立ち止まり、アーティストが伝えたいことを感じて欲しいと考えました。元宵節（旧暦1月15日の小正月）のランタン観賞は、旧正月の締めくくりとしていちばん大切な人と過ごす人が多いですから、テーマを「幸福GO GO」にしました。大事な人とともにランタンを作るイベントも企画しました。

Q5 今回いちばん前に出したかった価値とは。

世界を見てみると、日本には瀬戸内国際芸術祭、米国にはネバダ州のバーニング・マン、ポルトガルにはアゲダグアダ芸術祭があります。翻って台北ではどうやって人々の印象に残る芸術祭を作り上げればいいでしょうか。自分にとって、アートとランタンはイコールで結ばれます。昔のランタン作りは非常に凝っていて、技術や手法も複雑できめ細かなものでした。テレビなど娯楽のない時代、元宵節のこの日だけこんなにきれいな



巨大なペーパーアートのランタン「祈福生子燈」は、2018台北ランタンフェスの目玉のひとつ。（写真／高讃賢）

芸術作品を見ることができたのです。だから、ランタンフェスを台北最大の芸術祭にする、これが今回の努力目標でした。幅広く参加を要請した200人超のアーティストは、年齢25歳～40歳が中心で、世界各国で高く評価され実績を上げています。この人たちが加わることで、すばらしいアートの刺激とパワーがスパークしました。

Q6 中部の南投育ちですが、台北との縁はいつから、台北の印象は。

父は軍人で普段は台北で仕事をし、母も公務員でよく台北に出張していましたから、小学生のころからよく来ていました。当時、台北のすべてが珍しく、特に建物が全部すごく大きいと思っていました。好奇心が強く、何を見ても触りたくなるんです。手が持つパワーは絶大で、触ることでいろいろな感覚が触発されました。父について路地を歩くとき、その道に沿ってずっと触り続けていました。雑貨店で触ったものを落として壊してしまい、お店のご主人に父が頭を下げたこともありました。

Q7 長年台北で暮らしていますが、この都市を意識し始めたのはいつ。

もう台北で20年ほどになりますが、ここ3年でようやくゆっくりとこの都市を意識するに至りました。事務所のそばに旧華山駅があるのですが、つい最近、この民家みたいな2階建ての白い建物が駅長室だったことを知りました。この間、五月天（メイデイ）の瑪莎（マサ）ととりとめなく話していて、ここの鉄道が延吉街を通り、兵工廠まで続いていたと聞きました。この手の話や事件に幾度となく衝撃を覚え、台北にはまだまだ知られていない情報を発掘する楽しみがあるんだと思いました。

Q8 他の国際都市と比べ、台北という都市の最大の強みは。

台北はパリや東京のように歴史は長くないですが、もっと自由でもっとオープンなところ、それが最大の強みだと思います。自分は台北からたくさんの創作の場をもらっています。今回の台北ランタンフェスのように、こんな大きなイベントを我々若輩者にやらせてくれるなんて、台北市も大胆だなあと思います。



今年の台北ランタンフェスは200人超のアーティストがともに取り組み、見応えのあるアート作品がさらに創意のパワーを添えました。（写真／高讃賢）

若いアーティストも長い間あちこちで培ったものを発揮する機会が与えられ、この点、台北はカッコイイと思います。

Q9 台北で一番好きな場所は。心の秘密基地はどこにありますか。

北投も陽明山も好きですが、いちばん慣れ親しんでいるのは木柵です。20年の3分の2はここで過ごしています。台北の大学に進んでから、ずっと木柵にいますが、特に学生時代は、いつもバイクに乗ってあちこち行くなどたくさんの時間を過ごし、とても詳しくなりました。秘密基地は旧華山駅です。落ち込んだときに駅長室から外を眺めると、毎日20数人のアーティストがランタンフェスのため深夜3時～4時まで作業していました。50歳の竹アーティストなど、一旦ここに入ると1週間作業を続け、車で睡眠をとっていました。芸術に対するアーティストたちのこだわりと努力を見るだけで、再び力がみなぎります。

Q10 台北の人々にひとこと。

絶体絶命のピンチに陥ったとき、何とか心機一転することで九死に一生を得ることができます。台北の尊いところは心機一転を試みている人が必ずいることです。

ファッションでも食でも音楽でも、新しいものが次々に生まれ、台北とは常に心機一転を繰り返す都市であり、それが国際都市であるための大事な条件です。ここに住む人々が、よく食べ、よく暮らし、自分たちのいるこの場所にしっかり向き合い、いまを生きることができますように。



阿福

本名は何景揚。ソーダグリーンのギタリストでリーダー。2015年に「華山站貨場」を立ち上げ、台湾で最も素晴らしいアーティストを集結させ、舞台、音楽、デザイン、舞踏、雑技など最高のパフォーマンスを作り上げたいと考えている。

（写真／劉徳媛）

旅のお役立ち情報

桃園国際空港から台北市までのアクセス

台北市と桃園国際空港の交通手段には、スピーディーな桃園国際空港 MRT、安くて便利な空港バス、安全で快適なタクシー、専門的で質の高い送迎サービスがあります。いずれも所要時間と料金が異なりますので、必要に応じてお選びください。

タクシー

乗 り 場：第一ターミナルの到着ロビーの北側、第二ターミナルの到着ロビーの南側

片道料金：メーターの料金× 0.15 ＋高速道路料金。台北市内まで約 NT$1,100 元

第一ターミナルタクシーサービスセンター
電話：(03)398-2832

第二ターミナルタクシーサービスセンター
電話：(03)398-3599

空港バス

乗 り 場：第一ターミナル一階の到着ロビーの南西側、第二ターミナル一階の到着ロビーの北東側

運行会社：国光客運、長栄巴士、建明客運、大有巴士の 4 社

片道運賃：NT$85 元～ NT$145 元

所要時間：路線によって約 40 分～ 60 分 (大有巴士は停車バス停が多いため約 60 分～ 90 分)

運行間隔：約 15 分～ 20 分間隔

桃園国際空港 MRT

乗 車 駅：A12 機場第一航廈駅と A13 機場第二航廈駅

片道料金：NT$160 元

台北 MRT

営業時間：06:00 ～ 24:00　　24 時間お客様専用ダイヤル：(02)218-12345



IC トークン
(片道切符)

NT$20 元～ NT$65 元



MRT 1 デイパス

NT$150 元



台北 MRT フリーパス
(Taipei Metro Pass)

24 時間パス：NT$180 元
48 時間パス：NT$280 元
72 時間パス：NT$380 元

電子マネーとして、チャージするだけで MRT（都市交通システム）など公共交通機関やコンビニエンスストア、特約商店での小額決済ができます。シェアサイクルの YouBike にも使えます。購入は MRT やコンビニなど取扱店で。



悠遊カード
(EasyCard)



一卡通イーカートン
（iPASS）

「スポット＋交通手段」が一緒になった「無限周遊カード」と交通手段だけの「交通周遊カード」は、有効期限内に台北市と新北市、基隆市を思う存分遊ぶことができます。



北北基おもしろカード
無限周遊カード

有効期間は 1 日 /2 日 /3 日券
NT$ 1,200/1,600/1,900 元



北北基おもしろカード
交通周遊カード

有効期間は 1 日 /2 日 /3 日 /5 日 / 猫空ロープウェー 1 日券
NT$ 180/310/440/700/350 元

お知らせ

市のサービスを便利にご利用いただけるよう、台北市では 1999 市民ホットラインを実施しています。市内電話、携帯電話、インターネット電話 (公衆電話は除く) からフリーダイヤル「1999 台北市民ホットライン」をご利用ください。「1999 台北市民ホットライン」は、担当者への電話転送後の通話時間を最長 10 分としています。限りある資源を大切に、通話の際は要点を簡潔にお話下さい。

詳細については 1999 にダイヤルするか台北市研考会のサイト (http://english.rdec.gov.taipei/) でご確認下さい。

緊急連絡先一覧表

警察 / 110
犯罪、交通事故、そのほか警察の協力が必要な場合に利用

消防 / 119
火災、死傷事故、そのほか緊急救助が必要な場合に利用

婦女児童保護専用ダイヤル / 113 内線 1
家庭内暴力または性的暴力の被害者のための 24 時間緊急支援、法律相談、カウンセリングサービス
もし 110 または 119 に電話して言葉で困った場合は、24 時間サービスホットライン 0800-024-111 に電話してサポートを依頼することも可能です。

生活に役立つ連絡先

機関	電話番号
台北市民ホットライン	1999 (台北市外からは 02-2720-8889)
英語による電話番号案内	106
国際電話ダイレクトコール カスタマーサービス専用ダイヤル	0800-080-100 内線 9
時報	117
天気予報	166
道路状況	168
交通部観光局 トラベル相談ホットライン	0800-011-765 (フリーダイヤル)
交通部観光局 トラベル苦情専用ダイヤル	0800-211-734 (フリーダイヤル)
外国人台湾生活相談ホットライン	0800-024-111
観光局台湾桃園国際空港 トラベルサービスセンター	第一ターミナル (03)398-2194 第二ターミナル (03)398-3341
国際貿易局	(02)2351-0271
外貿協会 (TAITRA)	(02)2725-5200
台湾観光協会	(02)2594-3261
台北市日本工商会	(02)2522-2163
外交部	(02)2348-2999
外交部市民サービス専用ダイヤル	(02)2380-5678
警察ラジオ局	(02)2388-8099
タクシー呼出サービス 英語専用ダイヤル	0800-055-850 内線 2
消費者サービス専用ダイヤル	1950
中央健康保険局相談専用ダイヤル	0800-030-598
エイズ相談専用ダイヤル	0800-888-995

以上出典：
外國人在台生活服務 (Information For Foreigners) / 電話：0800-024-111
中華民國交通部観光局 / 電話：(02)2349-1500

※ 下地が茶色の部分は英語ダイヤル

台北市観光案内所

台北駅トラベルサービスセンター
(02)2312-3256
台北市北平西路 3 号 1 階

松山空港トラベルサービスセンター
(02)2546-4741
台北市敦化北路 340 之 10 号

MRT 西門駅トラベルサービスセンター
(02)2375-3096
台北市寶慶路 32 之 1 号地下 1 階

MRT 剣潭駅トラベルサービスセンター
(02)2883-0313
台北市中山北路五段 65 号

MRT 北投駅トラベルサービスセンター
(02)2894-6923
台北市光明路 1 号

**MRT 台北 101/
世貿駅 トラベルサービスセンター**
(02)2758-6593
台北市信義路五段 20 号地下 1 階

梅庭トラベルサービスセンター
(02)2897-2647
台北市中山路 6 号

**ミラマー・エンターテインメント・パーク
トラベルサービスセンター**
(02)8501-2762
台北市敬業三路 20 号

ゴンドラ猫空駅トラベルサービスセンター
(02)2937-8563
台北市指南路三段 38 巷 35 号

URS44 大稲埕ビジターセンター
(02)2559-6802
台北市迪化街一段 44 号

MRT 龍山寺駅トラベルサービスセンター
(02)2302-5903
台北市西園街一段 153 号地下 1 階

UNESCO
榮獲聯合國教科文組織亞太文化資產保存獎
2018 Baosheng Cultural festival

2018

保生文化祭

伝統・願い・新文化

4.21	開鑼式（開幕式）
4.20-5.13	民間劇場「家姓戯」
4.22	写生コンクール
4.28	保生大帝聖誕宴王祭
4.29	芸陣（民俗武芸）、巡礼行列、施放火獅（爆竹と花火）
4.30	保生大帝聖誕三献礼祭典、過火（ご本尊が火をくぐる儀式）
5.5	註生娘娘聖誕法会、宗教信仰講座
5.6	奨学金授与、無料健診
5.8	天上聖母聖誕法会
5.20	史跡芸術ガイドⅠ．Ⅱ 音楽会 - 合唱団による合唱
5.26-5.29	保安宮美術展
6.9	神農大帝聖誕三献礼祭典、巡礼行列
6.15	保生大帝飛昇紀念祭典、宴王祭
6.30	保安宮医療貢献賞授賞式 音楽会 - 医声室内楽団 PCOT の演奏

4.20-6.30

写真／陳彦瑞

広告

【指導】 文化部 臺北市政府　【主催】 財團法人 台北保安宮　【実施】 財団法人台北保安宮、台北市民政局、台北市文化局、台北市観光伝播局

2018 TAIPEI AZALEA

台北ツツジフェスティバル FESTIVAL

春の日、幸せ、愛で満たされる

愛を語ろう

3/14 – 4/15

幸福カーニバル	ツツジクラシック音楽祭		ピクニック音楽会
3/24	3/18,3/25	4/14,4/15	4/1
懐恩堂（新生南路三段90号）	台北中山堂（延平南路98号）	大安森林公園	大安森林公園

主催 臺北市政府 Taipei City Government

共催 觀光傳播局 Department of Information and Tourism

2018台北杜鵑花季

広告